

BEMS対応データ収集ソフト 取扱説明書 WRS-BASS-00 V1.00

watanabe
渡辺電機工業株式会社

はじめに

このたびは本ソフトウェアをお買い求めいただき誠にありがとうございます。

本取扱説明書は、本ソフトウェアを使用していただくためのサーバーの環境、インストールする手順、および操作方法を記述したものです。

本ソフトウェアを正しく永くご使用いただくために、ご使用前に必ずお読みください。

※ 本取扱説明書をご覧の前に「はじめにお読みください」をお読みください。

注意

- 1) 本ソフトウェアをお使いいただくには、本ソフトウェアのインストールCDからBEMS対応データベース管理ツールおよび、データベース(SQL Server Express)のインストールが必要です。
- 2) LAN通信を行いますのでファイアウォールの設定を無効にするか、例外許可の設定で本ソフトウェアを許可してください。

製品の確認

- 1) 次の梱包内容がお手元に揃っているか確認してください。また、CD-ROMは大切に保管してください。

表 梱包内容一覧

BEMS対応データ収集ソフト(WRS-BASS-00) CD-ROM	1枚
はじめにお読みください	1枚

- 2) CD-ROM内には以下のソフトウェアと取扱説明書/手順書があります。

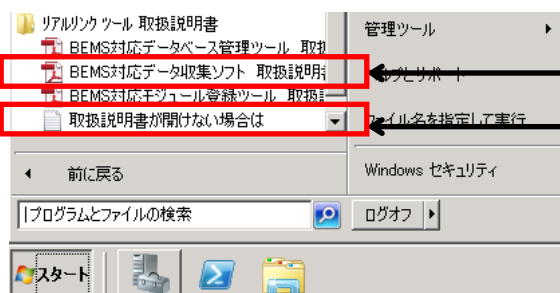
表 BEMS対応データ収集ソフト CD-ROM内容

ルートフォルダ	CD内フォルダ	分類	内容
WRS-BASS-00 CD-ROM	BASS	ソフトウェア	BEMS対応データ収集ソフト(インストーラ)
	MSDE		BEMS対応データベース管理ツール(インストーラ)
	取扱説明書	取扱説明書	BEMS対応データ収集ソフト取扱説明書
			BEMS対応データベース管理ツール取扱説明書
			はじめにお読みください
			取扱説明書が開けない場合は(txt)

取扱説明書について

本取扱説明書は、本ソフトウェアのインストール時にサーバー内に自動的に保存されます。

- ① [スタート]をクリックし、[すべてのプログラム]を選択後、[リアルリンクツール 取扱説明書]を選択します。
- ② [BEMS対応データ収集ソフト 取扱説明書]をクリックすると、本取扱説明書が表示されます。



本取扱説明書が表示されます

取扱説明書が表示されない場合は
こちらをお読みください

目次

はじめに.....	2
製品の確認.....	2
取扱説明書について.....	2
1. 特徴	5
1-1. 機能概要.....	5
1-2. 接続形態.....	6
2. 導入手順.....	7
3. 保証	8
3-1. 保証期間.....	8
3-2. 保証範囲.....	8
3-3. 責任の制限.....	8
4. 動作環境.....	9
4-1. 動作環境.....	9
4-2. 関連ソフトウェア	9
4-3. 対応機器一覧.....	9
5. インストール／アンインストール手順.....	10
5-1. インストール手順	10
5-1-1. インストーラの起動.....	10
5-1-2. Microsoft .NET Framework 1.1のインストール	10
5-1-3. ソフトウェアのインストール	11
5-1-4. ルータの設定.....	13
5-2. アンインストール手順.....	14
5-2-1. Microsoft .NET Framework 1.1のアンインストール.....	14
5-2-2. ソフトウェアのアンインストール	15
6. 起動と終了	16
6-1. ソフトウェアの起動	16
6-2. ソフトウェアの終了	17
6-3. ソフトウェアバージョンの確認	18
7. 機能説明.....	19
7-1. 蓄積データの収集.....	19
7-1-1. 蓄積ファイル	20
7-2. オンライン登録.....	25
7-2-1. 自動オンライン登録.....	25
7-2-2. 手動オンライン登録.....	25
7-3. 動作周期（データ収集／オンライン登録）.....	26
7-4. イベント表示.....	27
7-4-1. 表示イベント一覧.....	28
7-4-2. エラーコード一覧.....	29
7-4-3. イベントクリア	30

7-5. ログファイル作成	31
7-5-1. イベントログファイル	31
7-5-2. 表示イベントログファイル	35
7-5-3. 通信ログファイル	36
8. 設定方法	38
8-1. 環境設定	38
8-1-1. ディレイ時間設定タブ	41
8-2. WTM-DMD6Vの時刻補正方法の設定	45
8-2-1. 設定について	45
8-2-2. 設定手順	46
9. 表示メッセージ	47

- ・ 本ソフトウェアおよび本取扱説明書の内容は、お断りなく変更する場合がありますのでご了承ください。
- ・ お気づきの点がありましたら弊社までご連絡ください。
- ・ Core 2 Duoは米国Intel社の登録商標です。
- ・ Microsoft および、Windows Server 2008 R2、SQL Server 2005 Express、.NET Frameworkは米国Microsoft社の登録商標です。
- ・ RT58iはYAMAHA社の登録商標です。

1. 特徴

1-1. 機能概要

(1) オンライン登録

本ソフトウェアはBEMS対応モジュール登録ツールでオフライン登録済みのWTM-DMD6Vと通信を行い登録情報を更新し、データ収集が可能な状態にします。

(2) 蓄積データの収集

各拠点に設置されたWTM-DMD6Vからインターネット経由で蓄積データとイベントデータを収集します。WTM-DMD6Vの設定ファイルアップロード機能で設定した収集間隔で収集要求を受信し、自動で蓄積データを収集します。

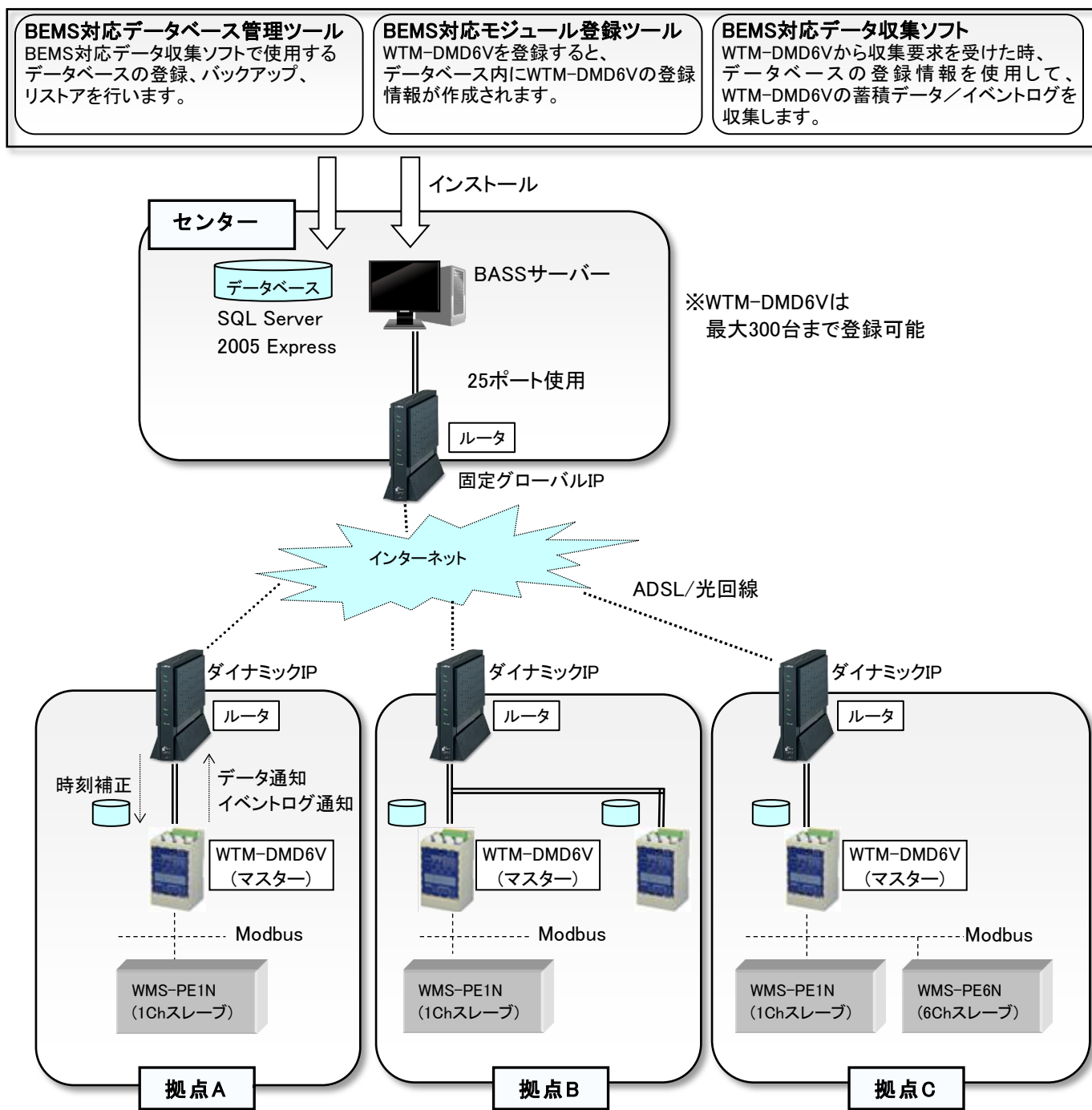
※ 蓄積データを収集行うには、事前にWTM-DMD6Vをオンライン登録する必要があります。

最大300拠点(300台)のWTM-DMD6Vから、以下のデータの収集できます。

1) WTM-DMD6V本体の蓄積データ

2) 1台につき最大31台までRS485で接続されたスレーブ(WMS-PE1NまたはWMS-PE6N)の蓄積データ

1-2. 接続形態

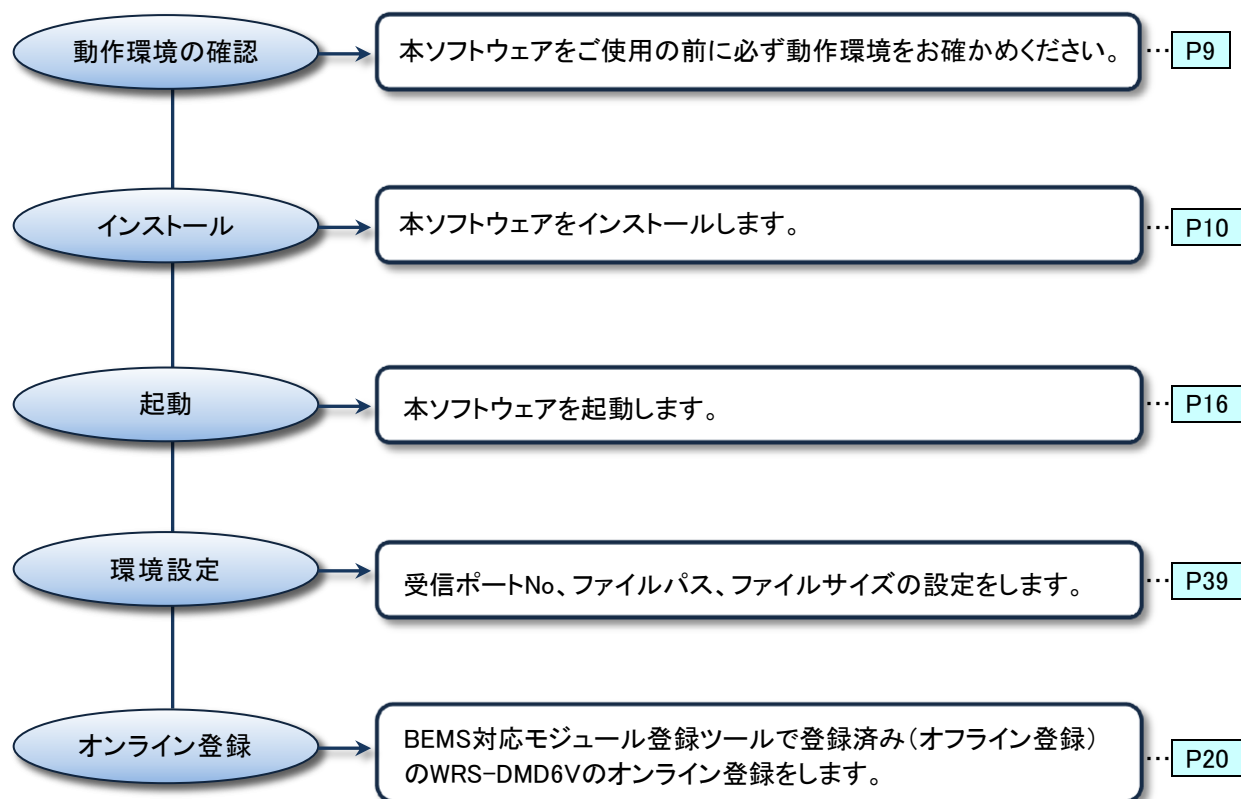


※ センター側、拠点側の構築については「はじめにお読みください」を参照してください。

2. 導入手順

本ソフトウェアを使用するための手順を確認してください。

※ 事前にBEMS対応データベース管理ツールとBEMS対応モジュール登録ツールの設定を行ってください。
本ソフトウェア以外のセットアップ手順については「はじめにお読みください」を参照してください。



※ ページナンバーをクリックするとそのページにジャンプします。

3. 保証

3-1. 保証期間

本ソフトウェアの保証期間は納入後1年間といたします。

3-2. 保証範囲

保証期間内に当社側の責により不具合が生じた場合は、代替品の提供を無償で実施させていただきます。ただし、不具合の原因が次に該当する場合はこの保証の対象範囲から除外いたします。

- 1) 本書に記載されている条件、環境、取扱いの範囲を逸脱してご使用された場合
- 2) 当社以外による構造、性能、仕様などの改変による場合
- 3) 本ソフトウェア以外の原因による場合（サーバー故障など）
- 4) その他、天災、災害、不可抗力など当社側の責ではない原因による場合

なお、ここでいう保証は本ソフトウェア単体の保証に限るもので、本ソフトウェアの不具合や瑕疵から誘発される損害は保証の対象から除かれるものとします。

3-3. 責任の制限

本ソフトウェアに起因して生じた損害に関しては、当社はいかなる場合も責任を負いません。

4. 動作環境

4-1. 動作環境

動作環境は以下のようになっています。

※以降、以下の要件を満たすサーバーをBASSサーバーと記述します。

表 4.1 動作環境一覧

項 目	要 件
OS	Windows Server 2008 R2 Standard SP1
CPU	インテル® Core™2 Duo プロセッサ 1.8GHz以上
メモリ容量	2GByte以上推奨
ディスク容量	80GByte以上の空き
CDドライブ	必須
ディスプレイ	XGA1024×768以上
マウス	必須
LANポート	必須
ネットワーク	ADSL、光回線（センター - 拠点間）
ルータ	RT58i（YAMAHA製）推奨

4-2. 関連ソフトウェア

本ソフトウェアと連携するソフトウェアは以下のとおりです。

表 4.2 関連ソフトウェア一覧

品 名	型 式	バージョン
BEMS対応モジュール登録ツール	WRS-BAMT-00	V1.00以降
BEMS対応データベース管理ツール	-	V1.00以降

4-3. 対応機器一覧

本ソフトウェアは以下の機器に対応しています。

表 4.3 対応機器一覧

品 名	型 式
BEMS対応デマンドコントローラ	WTM-DMD6V-00A□00
RS485スレーブ1CH低圧電力監視モジュール	WMS-PE1N
RS485スレーブ6CH低圧電力監視モジュール	WMS-PE6N

※以降、BEMS対応デマンドコントローラ(WTM-DMD6V-00A□00)をWTM-DMD6Vと記述します。

⚠ 注意

本ソフトウェアは、WTM-DMD6Vに対してインターネット経由で蓄積データの収集を行います。
その他の製品の蓄積データを収集することはできませんのでご注意ください。

5. インストール／アンインストール手順

5-1. インストール手順

本ソフトウェアをBASSサーバーにインストールします。

⚠ 注意

- 1) 本ソフトウェアは「Administrator」のユーザー名でログオンしてインストールしてください。
- 2) LAN通信を行いますのでファイアウォールの設定を無効にするか、例外許可の設定で本ソフトウェアを許可してください。
- 3) 本ソフトウェアをお使いいただくには、本ソフトウェアのインストールCDからBEMS対応データベース管理ツールおよび、データベース(SQL Server Express)のインストールが必要です。

5-1-1. インストーラの起動

本ソフトウェアのCD-ROM内の以下のファイルをダブルクリックしてください。

X : ¥BASS¥ Setup. exe

↑ インストールCDが入っているドライブ名

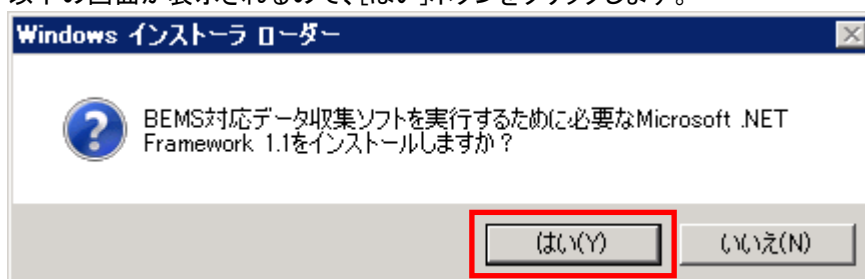
※「.exe」が表示されていない場合は、ファイルの種類が「Windowsインストーラーパッケージ」となっているファイルをダブルクリックしてください。

5-1-2. Microsoft .NET Framework 1.1のインストール

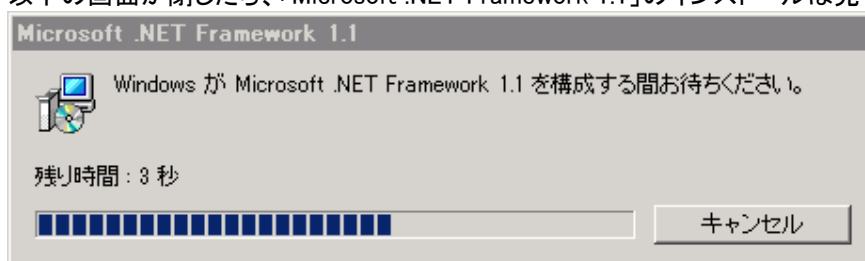
インストーラを起動すると、本ソフトウェアを実行するために必要な「Microsoft .NET Framework 1.1」のインストールが始まります。

※ 既にインストールされている場合は「5-1-3. ソフトウェアのインストール」が始まります。

- ① 以下の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。



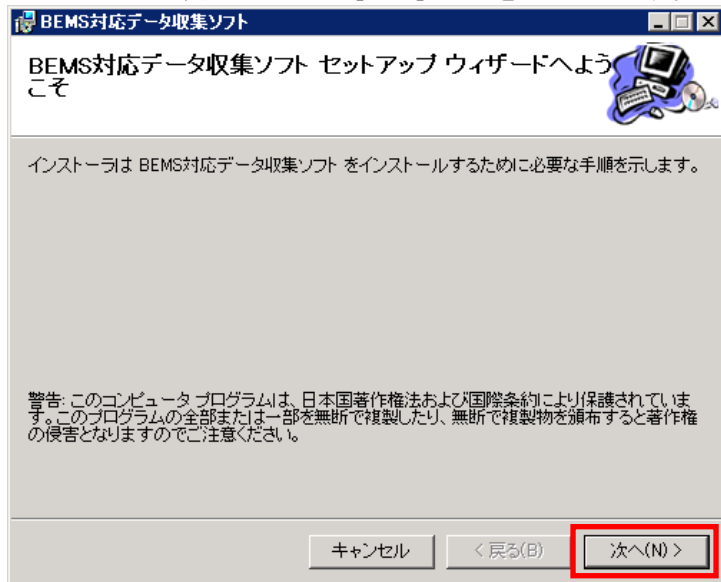
- ② 以下の画面が閉じたら、「Microsoft .NET Framework 1.1」のインストールは完了になります。



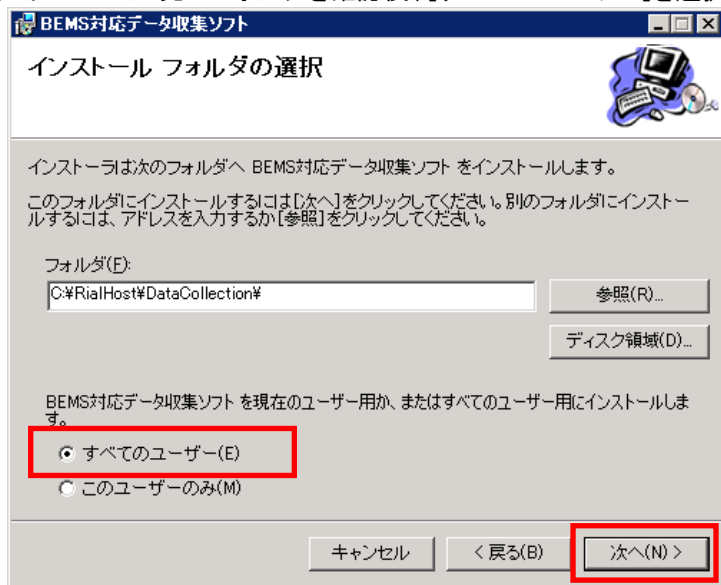
5-1-3. ソフトウェアのインストール

「Microsoft .NET Framework 1.1」のインストールが完了すると、自動的に本ソフトウェアのインストールが始まります。

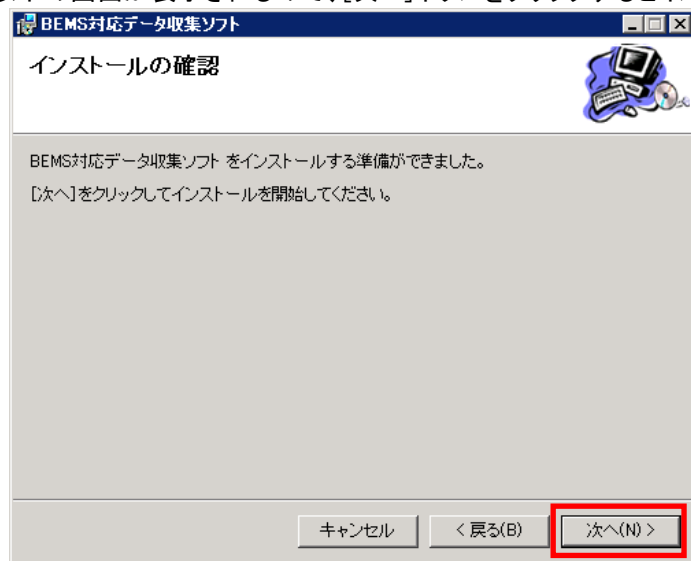
- ① 以下の画面が表示されるので[次へ]ボタンをクリックします。



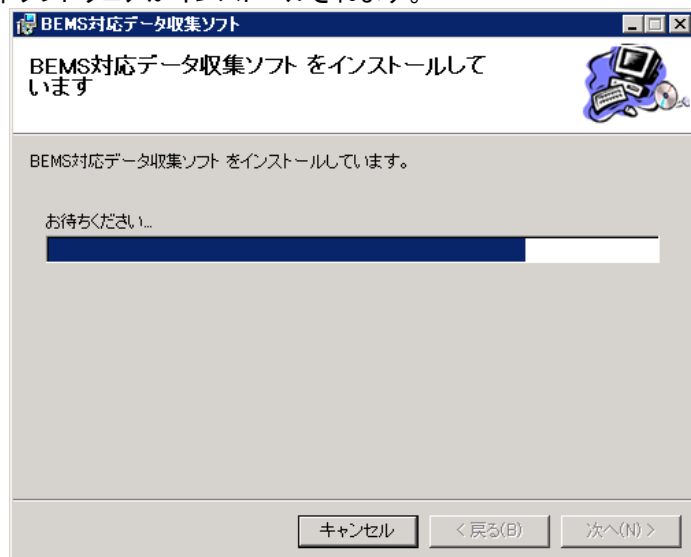
- ② インストール先のフォルダを確認後、[すべてのユーザー]を選択し[次へ]ボタンをクリックします。



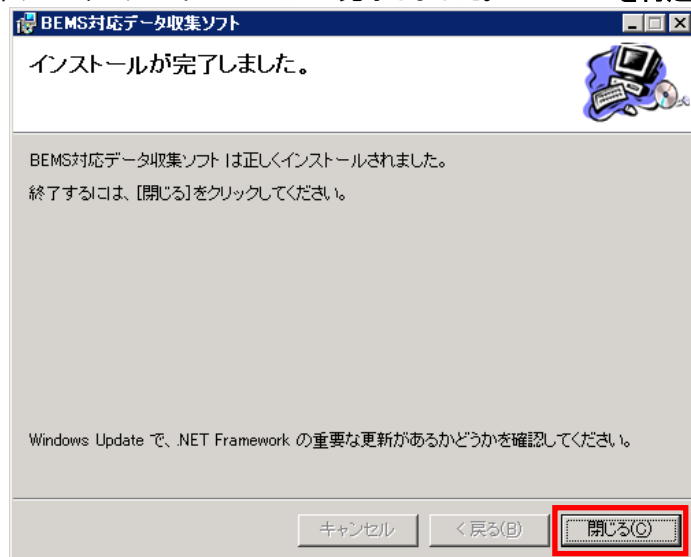
- ③ 以下の画面が表示されるので、[次へ]ボタンをクリックするとインストールが始まります。



- ④ 本ソフトウェアがインストールされます。



- ⑤ 以下の画面が表示されたら、[閉じる]ボタンをクリックしてください。
本ソフトウェアのインストールが完了しました。**Windowsを再起動**してください。



5-1-4. ルータの設定

センター側ルータのポートマッピング(静的IPマスカレード)の設定を行います。
本プログラムで使用するUDPポート16143～16167(計25ポート)をBASSサーバーに割り当ててポート開放を行ってください。

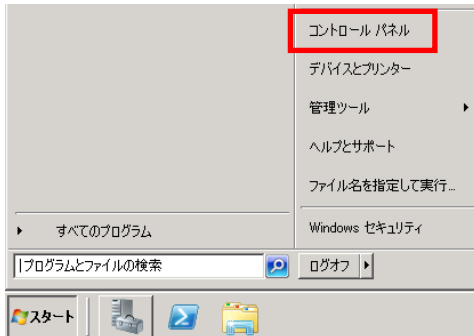
※本プログラムで使用するUDPポートの先頭ポートNoは「6-1. 環境設定画面」の「受信ポートNo」により変更できます。設定を変更した場合は、ルータのポート マッピング設定も合わせて変更してください。

5-2. アンインストール手順

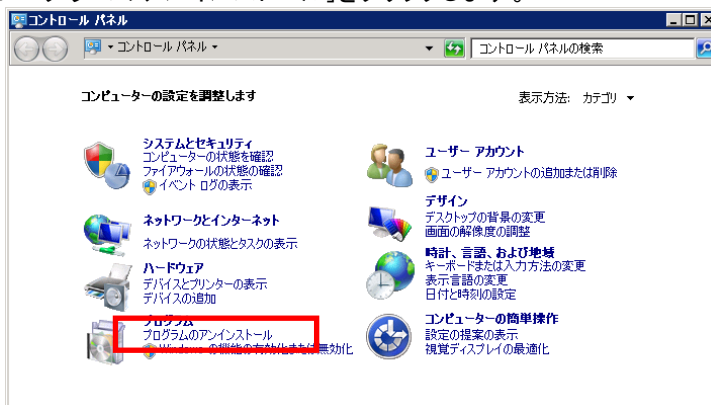
本ソフトウェアをBASSサーバーからアンインストールします。

5-2-1. Microsoft .NET Framework 1.1のアンインストール

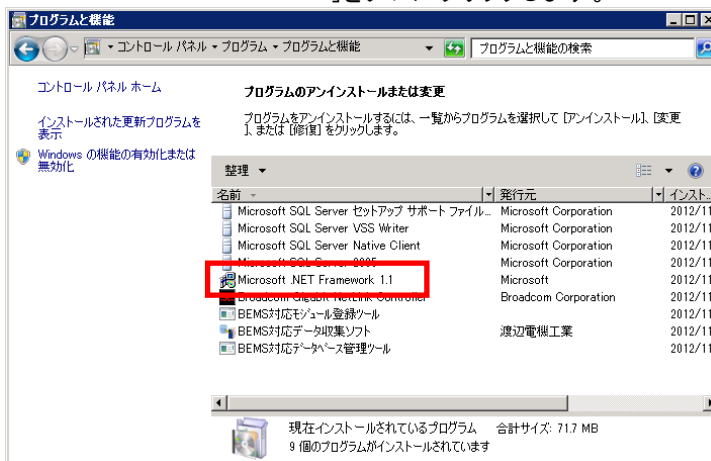
- ① [スタート]をクリックし、[コントロールパネル]をクリックします。



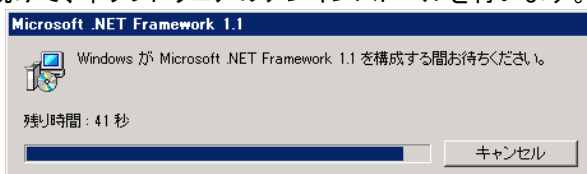
- ② [プログラムのアンインストール]をクリックします。



- ③ [Microsoft .NET Framework 1.1]をダブルクリックします。

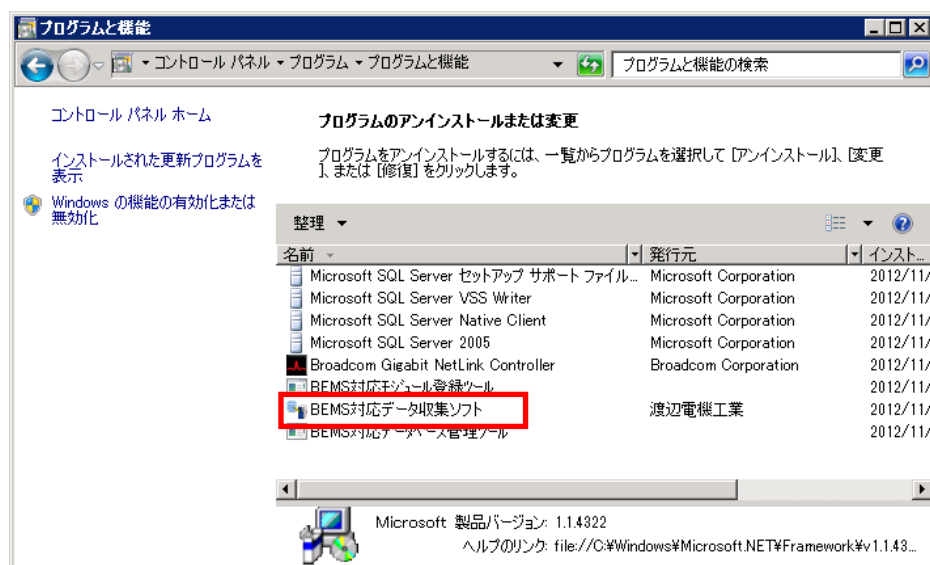


- ④ 以下の画面が閉じたら、「Microsoft .NET Framework 1.1」のアンインストールが完了しました。続けて、本ソフトウェアのアンインストールを行います。

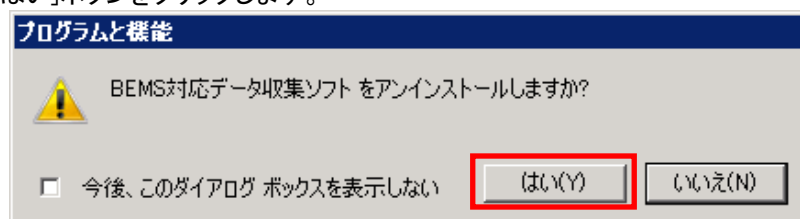


5-2-2. ソフトウェアのアンインストール

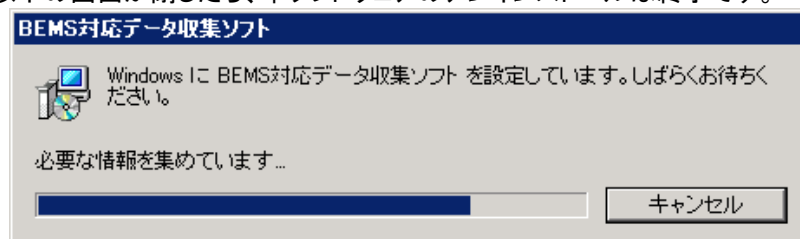
- ① 「5-2-1. Microsoft .NET Framework 1.1のアンインストール」を行った後、
[プログラムと機能]で[BEMS対応データ収集ソフト]をダブルクリックします。



- ② [はい]ボタンをクリックします。



- ③ 以下の画面が閉じたら、本ソフトウェアのアンインストールは終了です。



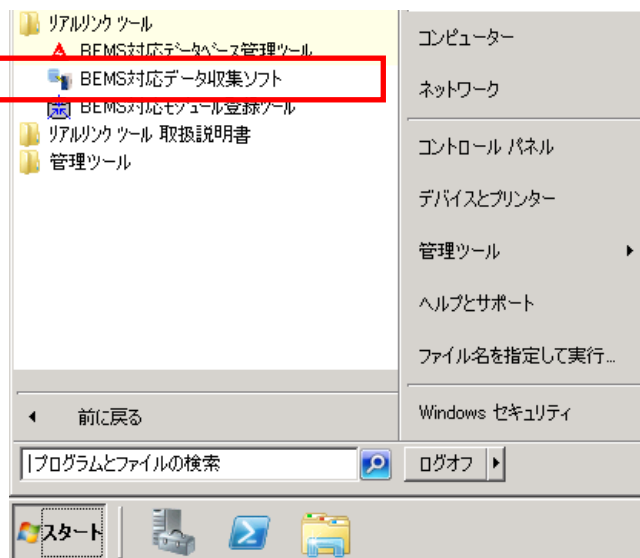
6. 起動と終了

本ソフトウェアの起動、終了、およびバージョンを確認します。

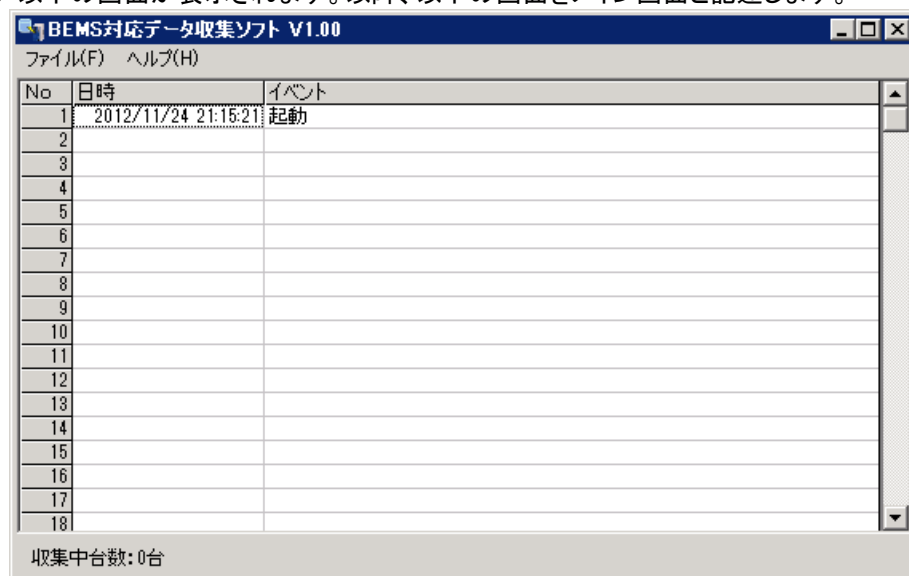
6-1. ソフトウェアの起動

本ソフトウェアを起動します。

- ① [スタート]をクリックし、[すべてのプログラム]を選択後、[リアルリンク ツール]を選択します。
- ② [BEMS対応データ収集ソフト]をクリックします。



- ③ 以下の画面が表示されます。以降、以下の画面をメイン画面と記述します。



画面 6.1

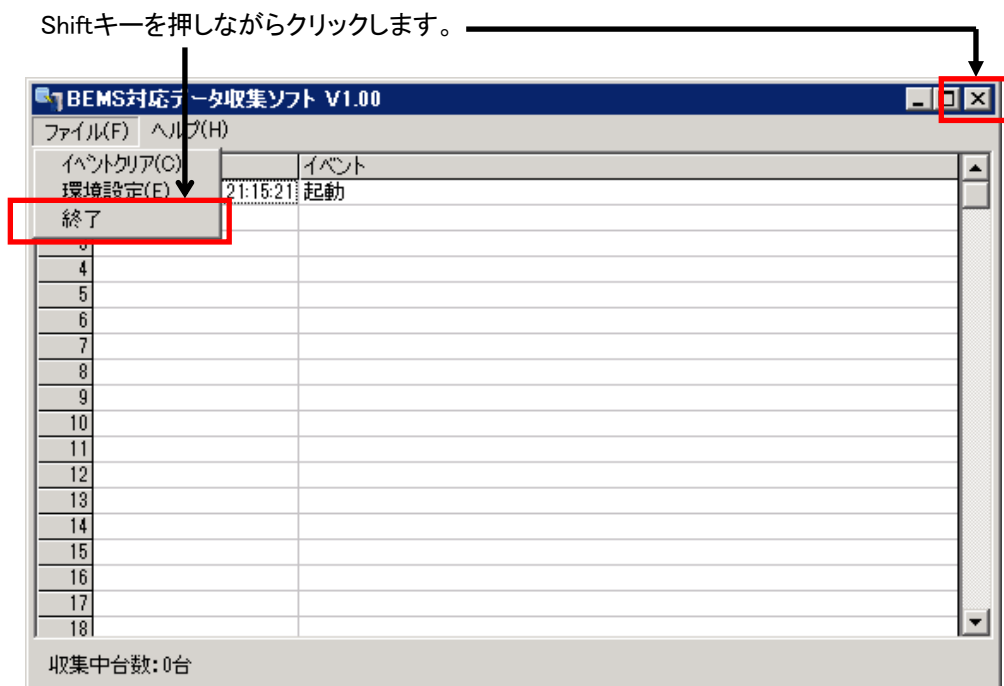
⚠ 注意

BEMS対応データベース管理ツール起動中は、本ソフトウェアを起動できません。
本ソフトウェアを使用する場合は、BEMS対応データベース管理ツールを終了後に本ソフトウェアを起動してください。

6-2. ソフトウェアの終了

本ソフトウェアを終了します。

- ① Shiftキーを押しながら、プルダウンメニューの[ファイル]から[終了]、またはメイン画面右上の[×]ボタンをクリックします。



画面 6.2

- ② データ収集中の場合「データ収集中です。収集完了後、自動で終了します」のメッセージが表示されます。全てのデータ収集が完了後に自動的に本ソフトウェアを終了します。

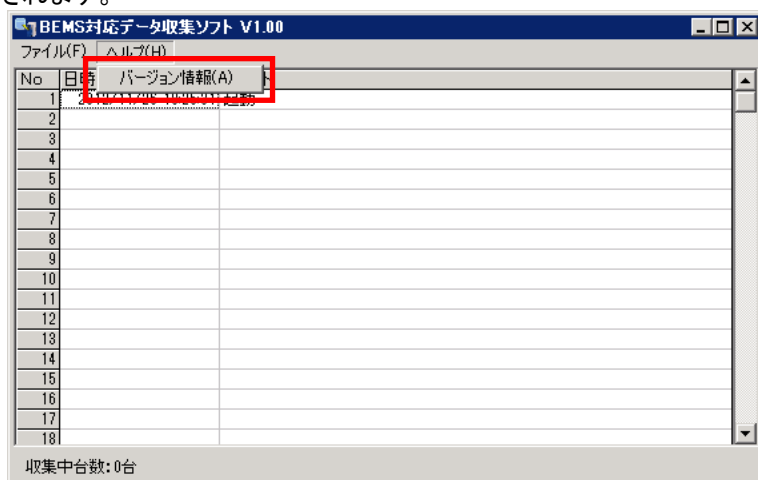
⚠ 注意

本ソフトウェア終了処理中は新たにデータ収集を開始しませんので、ご注意ください。

6-3. ソフトウェアバージョンの確認

本ソフトウェアのバージョンを確認します。

メイン画面のプルダウンメニューの[ヘルプ]から、[バージョン情報]を選択すると「バージョン情報」画面が表示されます。



画面 6.3



画面 6.4

確認後、[閉じる]ボタンをクリックしてください。

7. 機能説明

本ソフトウェアはWTM-DMD6Vからの収集要求を受信し、自動でデータ収集を行います。

7-1. 蓄積データの収集

本ソフトウェアは、WTM-DMD6Vの設定ファイルアップロード機能で設定した蓄積データの収集間隔に応じて蓄積データの収集を行います。

⚠注意

蓄積データが収集されない場合について

蓄積データを収集するには以下の条件に該当していることを確認してください。

条件に該当しない場合は蓄積データの収集を行いません。

- 1) WTM-DMD6Vの設定ファイルアップロード機能による設定を行っていること。
また、設定したBASSサーバーIPがBASSサーバーのIPアドレスと同じであること。
※ 詳細は「BEMS対応デマンドコントローラ 取扱説明書 第四章 設定ファイル」を参照してください。
- 2) BEMS対応モジュール登録ツールによるWTM-DMD6Vのオフライン登録を行っていること。
また、WTM-DMD6Vにアップロードした設定ファイルと同じ設定ファイルを使用して登録していること。
※ 詳細は「BEMS対応モジュール登録ツール 取扱説明書 6-1.WTM-DMD6Vの登録/変更/削除」を参照してください。
- 3) 本ソフトウェアで蓄積データの収集するWTM-DMD6Vのオンライン登録を行っていること。
※ オンライン登録の詳細は「7-1-1. オンライン登録」を参照してください。
- 4) 本ソフトウェアが起動していること。
- 5) WTM-DMD6VとBASSサーバーが通信可能であること。
- 6) LAN通信を行いますのでBASSサーバーのファイアウォールの設定を無効にするか、例外許可の設定で本ソフトウェアを許可してあること。
- 7) WTM-DMD6Vの内部時計を現在より過去の時刻に変更した場合、最後に収集した蓄積データの日時以前の蓄積データは収集されず、収集済みのデータが有効になります。
※ WTM-DMD6Vの内部時計の詳細は、「BEMS対応デマンドコントローラ取扱説明書 第三章 設定ファイル編」を参照してください。

⚠注意

データ収集のリトライ通信について

本ソフトウェアは、WTM-DMD6Vからデータ収集要求を受信することで収集が始まります。

通信エラーが発生した場合、40秒後にリトライ通信を行います。

リトライ通信に失敗すると、WTM-DMD6V内のイベントログに「LAN通信エラー」が記録されます。

その場合データ収集は失敗となりますが、次のデータ収集で今回収集するはずだった蓄積データも収集します。

⚠注意

蓄積データの収集中にパソコンが停止した場合には同一日時の蓄積データが作成されることがあります。

7-1-1. 蓄積ファイル

蓄積ファイルとは、本ソフトウェアがWTM-DMD6Vが蓄積したデータを収集して作成するファイルです。
蓄積ファイルはWTM-DMD6V(1台)につき1ファイル作成されます。

7-1-1-1. 格納パスとファイル名

本ソフトウェアは蓄積ファイルの作成先としてWORKフォルダとDBフォルダを使用します。

※1 WORKフォルダとDBフォルダは、WTM-DMD6V(1台)毎に以下のパスに自動で作成されます。

※2 詳細は「7-1-1-2. 蓄積ファイル保存動作」を参照してください。

⚠ 注意

WORKフォルダのファイルは本ソフトウェアで使用しているため、使用しないでください。

(1) WORK フォルダ

$\text{X} \text{ ¥ } \text{X} \text{ ¥ work ¥ モジュール名称000.DAT}$

 企業コード(モジュール名称の先頭から3文字)
 「8-1. 環境設定」で指定した蓄積ファイル格納パス

(2) DB フォルダ

$\text{X} \text{ ¥ } \text{X} \text{ ¥ db ¥ モジュール名称000.DAT}$

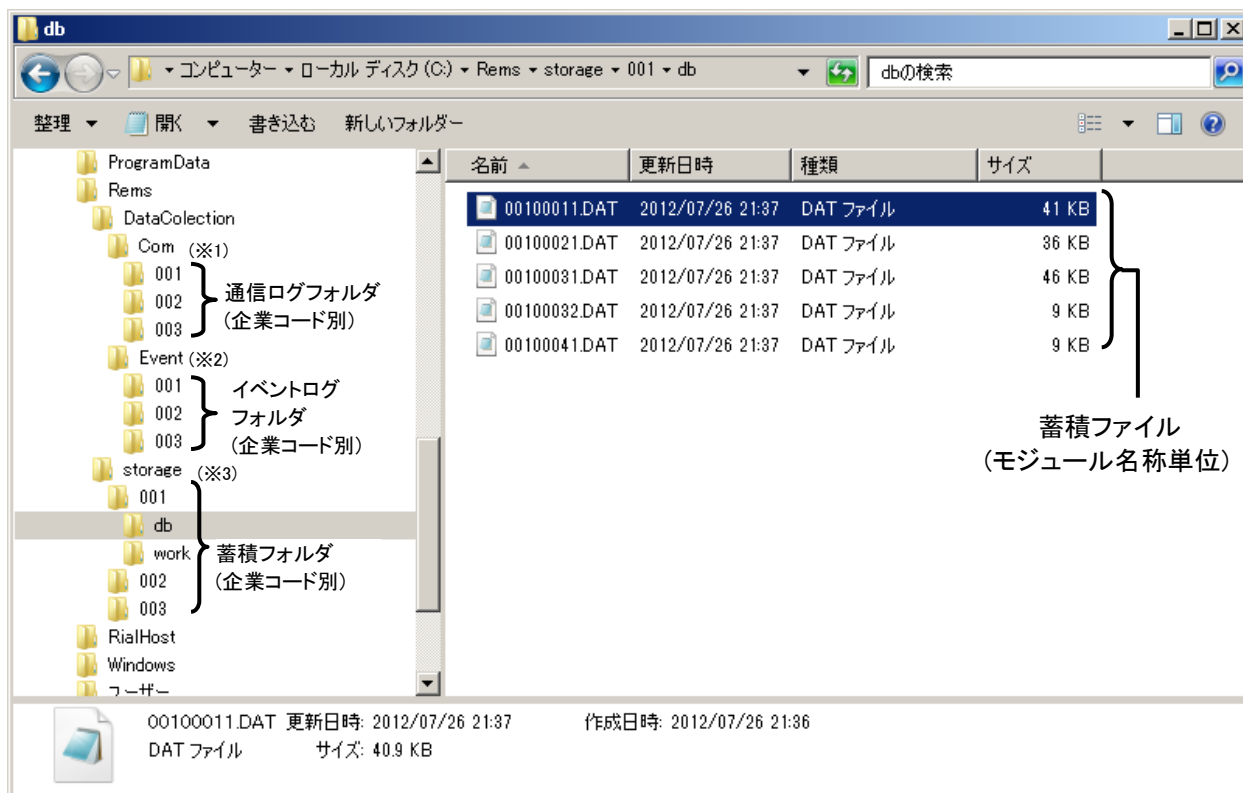
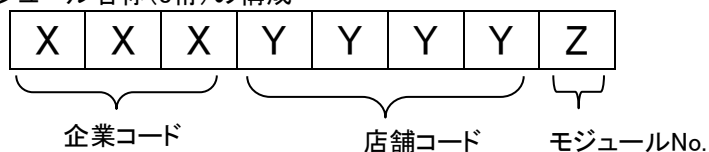
 企業コード(モジュール名称の先頭から3文字)
 「8-1. 環境設定」で指定した蓄積ファイル格納パス

例) 蓄積ファイル格納パス : C:\¥Rems¥storage
 モジュール名称 : C0100001



ファイル格納パス
 ●WORKフォルダ
 C:\¥Rems¥storage¥C01¥work¥C0100001000.DAT
 ●DBフォルダ
 C:\¥Rems¥storage¥C01¥db¥C0100001000.DAT

※モジュール名称(8桁)の構成



※1 環境設定画面のイベントログファイル格納パスで指定されたパス。

※2 環境設定画面の通信ログファイル格納パスで指定されたパス。

※3 環境設定画面の蓄積ファイル格納パスで指定されたパス。

7-1-1-2. 蓄積ファイル保存動作

(1) 基本動作

DBフォルダに作成された蓄積ファイルは定期的に移動、またはデータを取り込んだ後に削除してください。

※ DBフォルダに作成された蓄積ファイルを移動、または削除されない場合、WORKフォルダに蓄積ファイルが保存されます。

DBフォルダの蓄積ファイルが移動、または削除されるまでDBフォルダのファイルは更新されません。

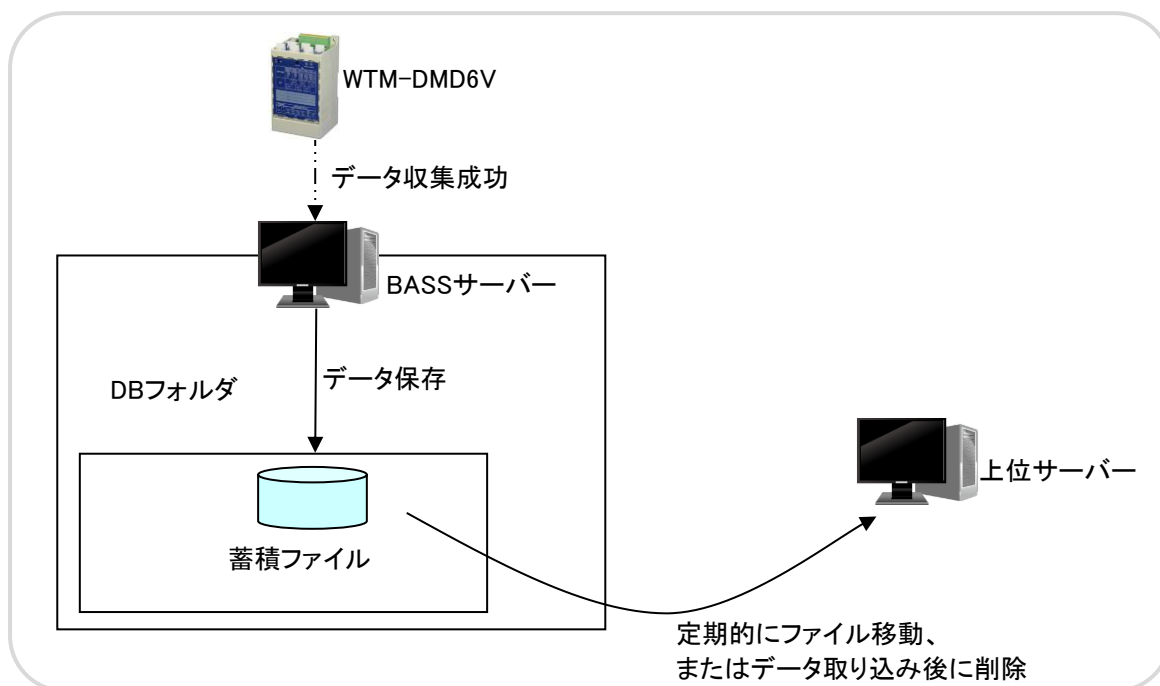
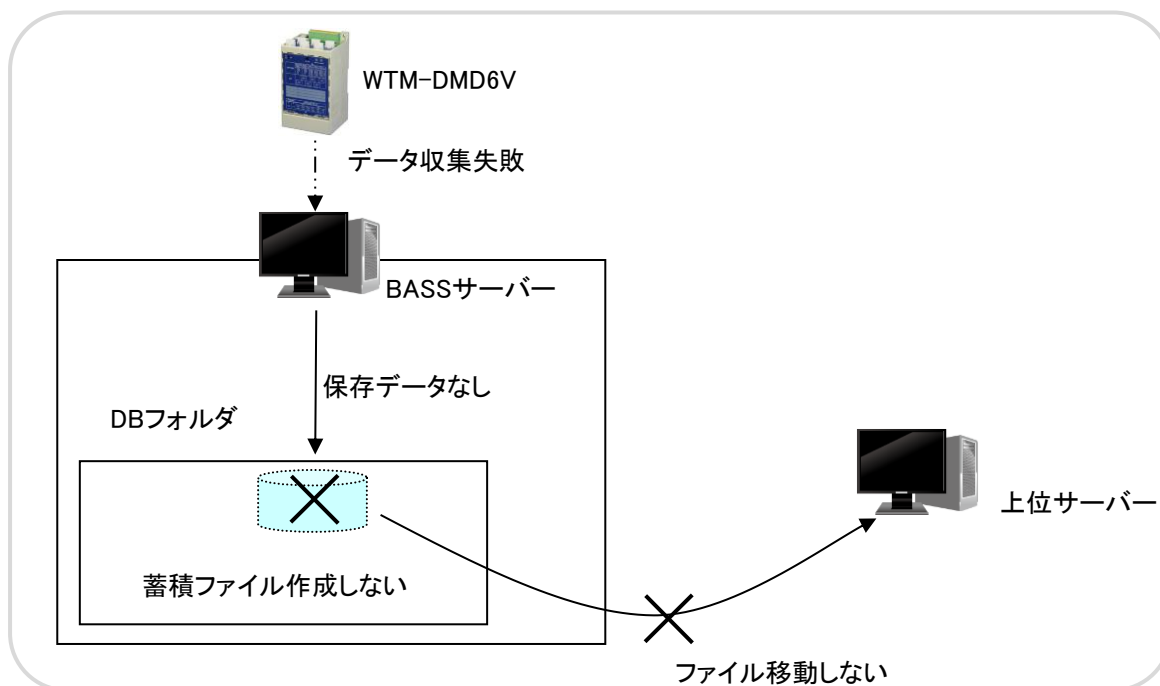


図 7.1

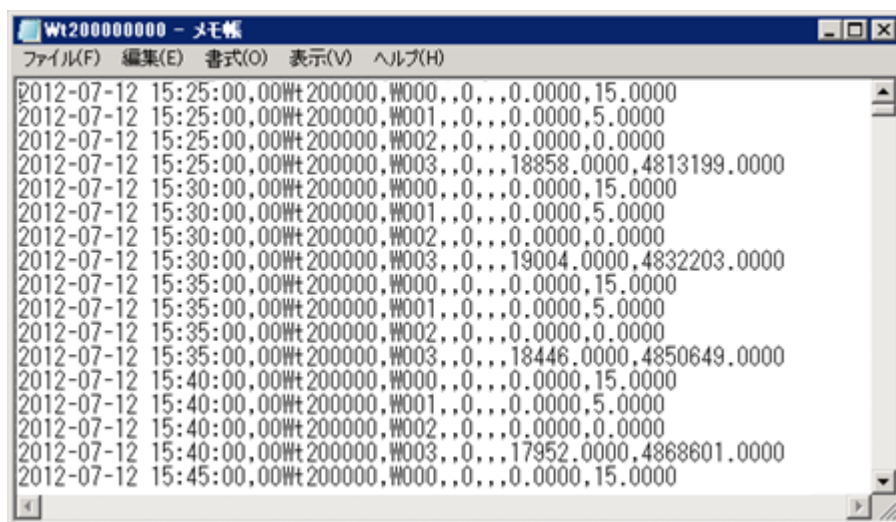
(2) データ収集失敗

以下の場合はDBフォルダに蓄積データが作成されません。



7-1-1-3. データフォーマット

蓄積ファイルを開くと以下のように保存されています。



例) 2008-11-14 12:00:00 , 0012345678 , W001 , 0 , , 12345.6789,999999999.9990

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

表 7.1 蓄積ファイルフォーマット

項番	項目	フォーマット
①	蓄積データ時刻	年月日時分秒
②	端末ID	10桁 (00+モジュール名称)
③	蓄積チャンネルNo	W0+XX 蓄積情報番号から1をマイナスした値の16進数表記
④	データ種別	0固定
⑤	差分データ (カウントデータまたは電力量データ)	各小数4桁
⑥	積算データ (カウントデータまたは電力量データ)	各小数4桁 ※ 行末に改行コードCR+LFが付きます

※カウントデータ、電力量データはWTM-DMD6Vに積算値で蓄積されます。
本ソフトウェアで前回収集時の積算値と差分処理を行っています。

※スレーブとの通信エラー等によりデータが存在しない場合、差分データ・積算データは「-」となります。
復帰した場合、最後に計測できた値からの差分値を蓄積ファイルに保存します。

※前回積算値と今回積算値の差分が、積算最大の50%を超過している場合、データの信頼性が低い
ため差分データ・積算データは有効範囲外による無効データとして「-」となります。
詳細は「7-1-1-4. データパターン」を参照してください。

7-1-1-4. データパターン

- 1) 通信に失敗した場合、蓄積データは「-」になります。

例) 2008-11-14 12:00:00 , 0012345678 , W001 , , 0 , , , -, -

- 2) 差分データで、前回の積算値の差分が積算最大値の50%を超過した場合、蓄積データは「-」になります。

例) 2008-11-14 12:00:00 , 0012345678 , W001 , , 0 , , , -, -

7-2. オンライン登録

オンライン登録とは、オフライン登録状態のWTM-DMD6Vと通信をして登録情報を更新し、データ収集が可能な状態にすることをいいます。

本ソフトウェアは登録されたWTM-DMD6Vの収集間隔で蓄積データを収集します。

オンライン登録を行うには、自動で行う方法と手動で行う方法があります。

※ オフライン登録の詳細は、「BEMS対応モジュール登録ツール取扱説明書 6-1.WTM-DMD6Vの登録/変更/削除」を参照してください。

⚠ 注意

オンライン登録を行うWTM-DMD6Vは、事前に蓄積設定が行われている必要があります。

蓄積設定を行っていない場合は、BEMS対応モジュール登録ツールで登録情報の変更を行い、蓄積設定を行ってください。

※ 蓄積設定の詳細は、「BEMS対応デマンドコントローラ取扱説明書 第四章 設定ファイル編」を参照してください。

7-2-1. 自動オンライン登録

以下の条件がすべてそろったとき、本ソフトウェアは自動でオンライン登録を行います。

- 1) BEMS対応モジュール登録ツールでWTM-DMD6Vがオフライン登録されている。
- 2) そのWTM-DMD6VのWeb画面から設定ファイルがアップロード済み。
- 3) そのWTM-DMD6Vがオンライン登録を行っていないこと。
- 4) BASSサーバーの時計とWTM-DMD6Vの時計をあらかじめ合わせていること。

※ WTM-DMD6Vの時計設定の詳細は「BEMS対応デマンドコントローラ取扱説明書 第三章 Webサーバー編」を参照してください。

オンライン登録が完了するまではBASSサーバーからWTM-DMD6Vの操作はできません。

オンライン登録が終わらなかったWTM-DMD6Vは、収集間隔経過後の次のオンライン登録タイミング(10分後)にオンライン登録を行います。

7-2-2. 手動オンライン登録

任意のタイミングでオンライン登録を行いたい場合は、手動オンライン登録を行います。

本ソフトウェアは10分周期でデータ収集とオンライン登録を繰り返しています。

オンライン登録は時計の「分」の1の位が5～8の間にWTM-DMD6Vのセットスイッチを押すことで行います。

例) 12時25分 ～ 12時28分の間にWTM-DMD6Vのセットスイッチを押します。

※1 本ソフトウェアの10分周期の詳細は「7-3. 動作周期 (データ収集/オンライン登録)」を参照してください。

※2 WTM-DMD6Vでのオンライン登録の操作については「BEMS対応デマンドコントローラ取扱説明書 第四章 設定ファイル編」を参照してください。

※3 たとえば、60分で50台のオンライン登録を行うには10分毎に8台～9台の登録を行う必要があります。(WTM-DMD6Vのセットスイッチでの登録を1台ずつ順番に行います)

7-3. 動作周期（データ収集／オンライン登録）

本ソフトウェアは以下の間隔毎に10分周期でデータ収集とオンライン登録を行います。

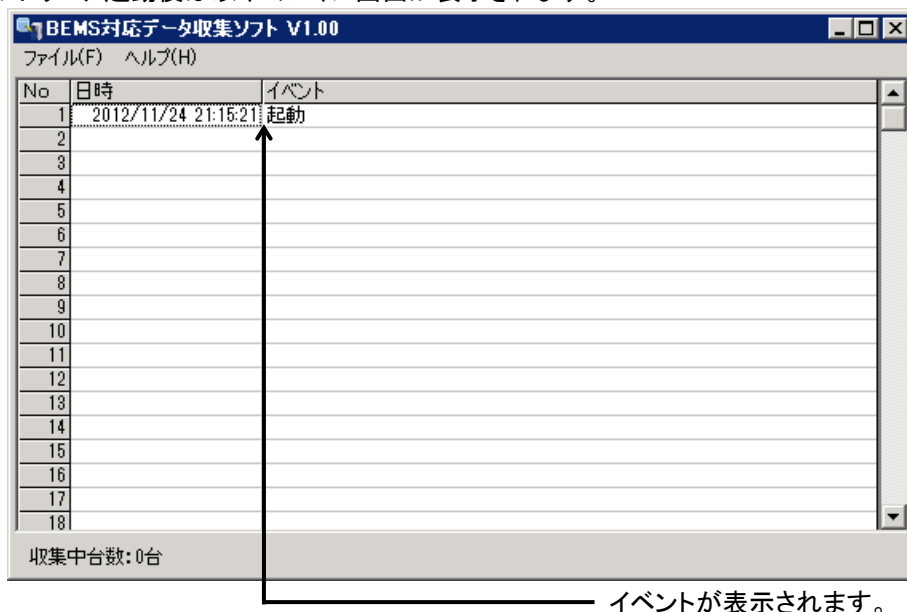


⚠ 注意

本ソフトウェアを起動した状態で、BEMS対応モジュール登録ツールで登録情報を更新した場合、次の10分周期でのデータ収集から登録情報の変更が有効になります。
更新が有効になる前にデータ収集を行うと、更新前の登録情報でデータ収集が行われます。

7-4. イベント表示

本ソフトウェア起動後は以下のメイン画面が表示されます。



画面 7.1

日時、イベント内容が表示されます。



No	日時	イベント
1	2012/09/02 09:53:26	起動
2	2012/09/02 11:52:23	C0100001 収集終了 (11:51:20～) イベント3件
3	2012/09/02 11:52:45	C0100003 収集異常 (11:52:45～) イベント0件 エラーコード(R0)
4	2012/09/02 11:53:20	C0100003 収集異常 (11:53:19～) イベント0件 エラーコード(JL)
5	2012/09/02 11:53:45	C0100003 収集異常 (11:53:44～) イベント2件 エラーコード(EU)
6	2012/09/02 11:54:47	C0100003 収集異常 (11:54:15～) イベント3件 エラーコード(AR)
7	2012/09/02 12:31:34	C0100003 収集異常 (12:31:02～) イベント3件 エラーコード(R3)
8	2012/09/02 12:32:21	C0100003 収集異常 (12:31:58～) イベント3件 エラーコード(R3)
9	2012/09/02 12:32:55	C0100003 収集異常 (12:32:54～) イベント3件 エラーコード(R3)
10	2012/09/02 12:33:34	C0100003 収集異常 (12:33:34～) イベント0件 エラーコード(Port : 16144)
11	2012/09/02 12:51:44	C0100003 収集異常 (12:51:44～) イベント0件 エラーコード(DB)
12	2012/09/02 12:58:26	データベース接続異常
13		

イベント表示は最大1000件まで表示されます。

1000件を超えた場合は「起動」イベント以外をクリアし新たに「No」の2からイベントが表示されます。

「起動」以外のイベントは「No」の色が赤になります。

※ 内容については「7-4-1. 表示イベント一覧」を参照してください。

7-4-1. 表示イベント一覧

以下のイベントが表示される事があります

表 7.2 表示イベント一覧

イベント表示	内容
起動	本ソフトウェアを起動した時に表示されます。
収集終了	収集を終了した時に、WTM-DMD6Vから収集したイベント件数が1件以上の場合に表示されます。 ※1 イベント件数が0件の場合、表示されません。 ※2 表示内容の詳細については表の後に記述します。
収集異常	収集に失敗した時に表示されます。 エラーコードは「7-4-2. エラーコード一覧」の内容を確認してください。 ※ 表示内容の詳細については表の後に記述します。
収集中ファイル作成失敗	蓄積データ収集中にファイル書き込み動作が失敗しました。 次回蓄積データ収集時、または本ソフトウェア再起動時に収集済みの蓄積データが書き込まれます。
収集中ファイルオープン失敗	蓄積データ収集前に、ファイルオープン動作に失敗しました。 蓄積ファイルを別のソフトウェアで開いていないか確認してください。 次回蓄積データ収集時、収集されなかった蓄積データも収集されます。
データベース接続異常	データベースの接続に失敗した場合に表示されます。
オンライン登録異常	オンライン登録に失敗した場合に表示されます。 エラーコードは「7-4-2. エラーコード一覧」の内容を確認してください。 ※ 表示内容の詳細については表の後に記述します。

(1) 「収集終了」のイベント表示内容

C0100001, 収集終了 (11:51:20~) イベント3件

↑ ↑ ↑
モジュール名称 収集開始時間 イベント件数

(2) 「収集異常」のイベント表示内容

C0100001, 収集異常 (11:52:45~) イベント3件 エラーコード(RO)

↑ ↑ ↑ ↑
モジュール名称 収集開始時間 イベント件数 エラーコード

(3) 「オンライン登録異常」のイベント表示内容

C0100001, オンライン登録異常 エラーコード(RO)

↑ ↑
モジュール名称 エラーコード

※1 イベント件数はWTM-DMD6Vから収集したイベントログより、LAN通信エラー、起動／停止、デマンド制御、LAN/Modbusリンク、ハード障害のイベントが発生した件数が表示されます。

イベントの詳細は「7-5-1-3. イベント一覧」を参照してください。

※2 エラーコードの詳細は「7-4-2. エラーコード一覧」を参照してください。

7-4-2. エラーコード一覧

「収集異常」または、「オンライン登録異常」が発生した場合のエラーコードは以下になります。

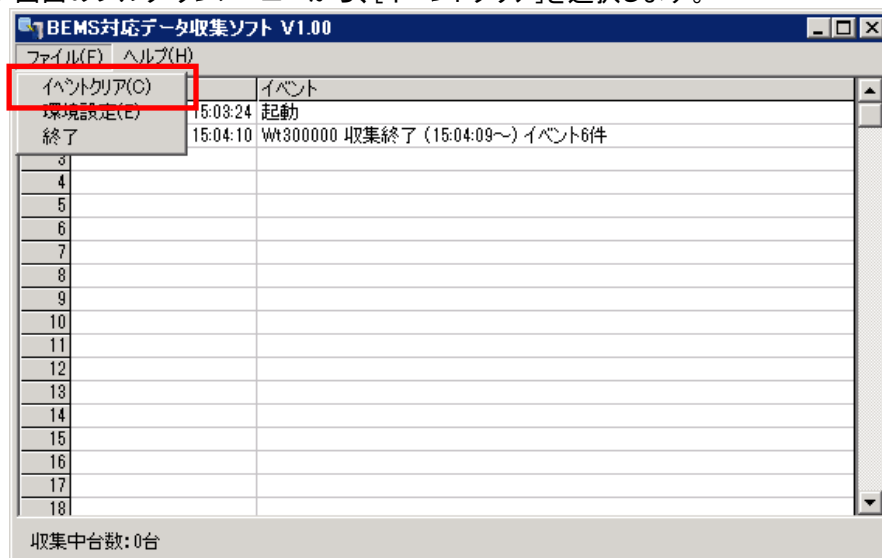
表 7.3 エラーコード一覧

エラーコード	内容	考えられる要因
RO	・蓄積チャンネル数問い合わせ失敗 ・蓄積チャンネル数不整合	・通信異常 ・WTM-DMD6Vとデータベースで蓄積チャンネル数に差異がある
DB	・データベース接続失敗 ・データベース更新失敗 ・WTM-DMD6Vの蓄積設定が未設定	・他のソフトウェアでデータベースに接続中 →他のソフトウェアを終了して、サーバーを再起動後に再度収集/オンライン登録を行ってください。 ・オンライン登録を行うWTM-DMD6Vの蓄積設定がされていない。 →WTM-DMD-6Vの蓄積設定がされていることを確認してください。 ・SQL Server Expressが停止している →SQL構成マネージャでSQL Serverのサービスが停止していないことを確認してください。
UL	・蓄積データ収集失敗 ・WTM-DMD6Vへの要求の送信失敗	・通信異常
EU	・イベントデータ収集失敗	・通信異常(データ収集時のみ)
AR	・時計校正失敗	・通信異常
R3	・送信ディレイ時間設定失敗	・通信異常
Port: ポートNo	・UDPポートオープン失敗	・他のソフトウェア等でUDPポートが使用されている。 →環境設定画面で設定した受信ポートNoを先頭ポートとして連続する25個のUDPポート(デフォルト16143～16167)が使用可能か確認してください。
Pi	・モジュール種別取得失敗	・通信異常(オンライン登録時のみ) ・オンライン登録を行おうとしている機器がWTM-DMD6V以外
TL	・MACアドレス取得失敗	・通信異常(オンライン登録時のみ)

7-4-3. イベントクリア

表示されているイベントをクリアします。

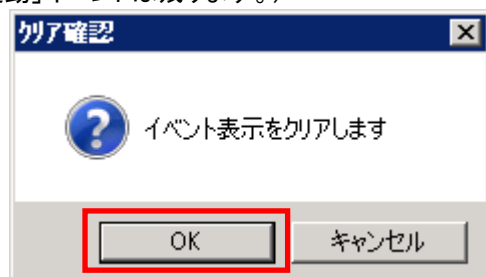
メイン画面のプルダウンメニューから、[イベントクリア]を選択します。



画面 7.3



以下の「クリア確認」画面が表示されるので、[OK]ボタンをクリックするとイベント表示がクリアされます。
(「起動」イベントは残ります。)



画面 7.4

7-5. ログファイル作成

7-5-1. イベントログファイル

イベントログファイルとは、WTM-DMD6Vが蓄積したイベントデータを収集して作成するファイルです。
イベントログファイルはWTM-DMD6V(1台)につき1ファイル作成されます。

7-5-1-1. 格納パスとファイル名

イベントログファイルは以下のパスを使用します。

※EVENTフォルダは自動で作成されます。

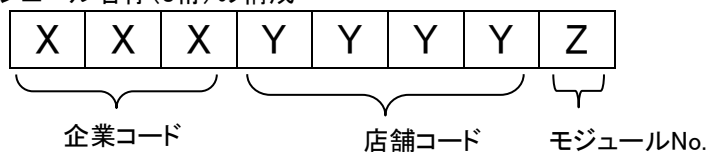
●EVENT フォルダ

X ¥ EVENT ¥ X ¥ モジュール名称.LOG

↑ 企業コード(モジュール名称の先頭から3文字)

↑ 「8-1. 環境設定」で指定したイベントログファイル格納パス

※モジュール名称(8桁)の構成



例) イベントログファイル格納パス : C:¥Rems¥DataCollection

モジュール名称 : C0100001



ファイル格納パス

C:¥Rems¥DataCollection¥EVENT¥C01¥C0100001.LOG

7-5-1-2. データフォーマット

WTM-DMD6Vのイベントログファイルを開くと以下のように保存されています。



例) 2008/11/14,12:00:00 , 12 LAN Link(Up 100/D)

↑	↑	↑
イベント時刻	イベント種別 No	イベント内容
(年月日時分秒)		

※ イベント種別Noとイベント内容については「7-5-1-3. イベント一覧」を参照してください。

7-5-1-3. イベント一覧

表 7.4 イベント一覧

イベント 種別No	イベント種別	イベント内容
02	蓄積	蓄積(間隔指定収集要求送信, 収集終了)
03	デマンド制御	デマンド制御(注意, 発生, 現在電力:00kW/目標電力:00kW)
		デマンド制御(注意, 復帰, 現在電力:00kW/目標電力:00kW)
		デマンド制御(遮断, 発生, 現在電力:00kW/遮断電力:00kW)
		デマンド制御(遮断, 復帰, 現在電力:00kW/遮断電力:00kW)
		デマンド制御(超過, 発生, 現在電力:00kW/警報電力:00kW)
		デマンド制御(時限終了, 現在電力:00kW/(xxx):00kW) 警報名称
		警報名称: 目標電力、遮断電力、警報電力
		デマンド制御(最大デマンドクリア)
		デマンド制御(メール異常,xxx) メール内容
06	LANエラー	LAN Error(DMA)
		NTP Error
		NTP Error(OVER)
	LAN通信エラー	LAN通信エラー(間隔指定収集要求送信, 収集エラー(xxx)) エラー発生フェーズ
		エラー発生フェーズ: 収集要求、チャンネル数確認、蓄積収集、イベント収集
08	起動・停止	Ready V1.00
		PowerOFF
		SOFT VerUP(OK)
		Wach Dog Reset Start
		Reset Start(Telnet)
		LAN SW(ON)
		LAN SW(OFF)
		IP Address Initial
		Telnet ini Initial
		SET SW Initial
		Reset Start(Telnet)
		Reset Start(Power)
		Reset Start(Error)
09	時計	RTC Set(From yyyy/mm/dd hh:mm:ss) 時刻補正前のタイムスタンプ
11	ハード障害	Program SUM Check Error
		RAM Check Error
		FRAM SUM Check Error
		FRAM Check Error
		FRAM Write Error(FFFF) FRAMアドレス
		FRAM Read Error(FFFF) FRAMアドレス
		RTC Error(COM)
		RTC Error(BAT)
		File System Error(Init)
		File System Error(Write)
		File System Error(Seek)
		File System Error(Read)
		File System Error(Cmp)

イベント 種別No	イベント種別	イベント内容
11	ハード障害	File System Error(Open)
		File System Error(Close)
12	LAN/Modbusリンク	LAN Link(Down)
		LAN Link(Up 100/D)
		LAN Link(Up 100/H)
		LAN Link(Up 10/D)
		LAN Link(Up 10/H)
		Slave Link(Down X)
		Slave Link(UP X)
16	DO手動操作	手動操作(OUTPUT _n ,手動ON) DOチャンネル
		手動操作(OUTPUT _n ,手動OFF) DOチャンネル

7-5-2. 表示イベントログファイル

表示イベントログファイルとは、メイン画面で表示したイベント情報を保存するファイルです。
表示イベントログファイルは1ファイル作成されます。

7-5-2-1. 格納パスとファイル名

表示イベントログファイルは以下のパスを使用します。

●表示イベントログファイルパス

✕ ≠ EVENT_DISP.LOG

↑「8-1. 環境設定」で指定した表示イベントログファイル格納パス

例) 表示イベントログファイル格納パス : C:\¥Rems¥DataCollection

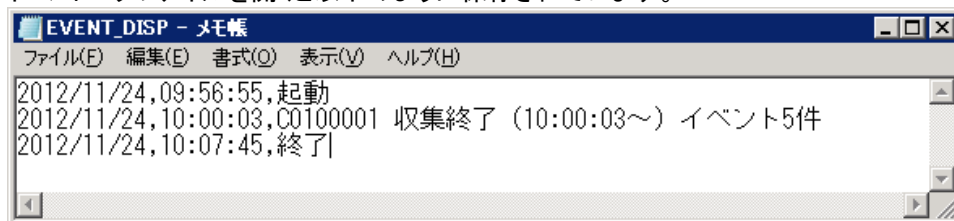


ファイル格納パス

C:\Rems\DataCollection\EVENT DISP.LOG

7-5-2-2. データフォーマット

表示イベントログファイルを開くと以下のように保存されています。



例) 2012/11/24,10:00:03 , C0100001 収集終了(10:00:03～) イベント5件

↑
イベント時刻
(年月日時分秒)

↑
モジュール名称

↑
イベント内容

7-5-2-3. イベント件数

イベント件数は、イベント種別No:03/06/08/11/12の件数です。

※イベント種別については「7-5-1-3. イベント一覧」を参照してください。

7-5-3. 通信ログファイル

通信ログファイルとは、本ソフトウェアがデータ収集で送受信した通信データを保存するファイルです。

通信ログファイルは以下の2種類あります。

- 1) WTM-DMD6V(1台)につき1日毎に1ファイル作成し通信データを保存する通信ログファイル。
- 2) 本ソフトウェアが認識していないWTM-DMD6Vからの収集要求送信、またはコマンドエラーのデータを保存するログファイル。

7-5-3-1. 格納パスとファイル名

- 1) WTM-DMD6V(1台)毎に保存される通信ログファイルの場合、以下のパスを使用します。

※COMフォルダは自動で作成されます。

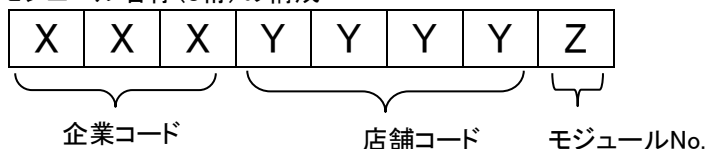
●WTM-DMD6V(1台)毎に保存される通信ログファイルパス

X ¥ COM ¥ X ¥ モジュール名称_年-月-日.LOG

↑ ↑
 企業コード(モジュール名称の先頭から3文字)

↑
「8-1. 環境設定」で指定した通信ログファイル格納パス

※モジュール名称(8桁)の構成



例) 通信ログファイル格納パス : C:¥Rems¥DataCollection
 モジュール名称 : C0100001
 ログ作成年月日 : 2012/11/10



ファイル格納パス
 C:¥Rems¥DataCollection¥COM¥C01¥C0100001_2012-11-10.LOG

- 2) 本ソフトウェアが認識していないWTM-DMD6Vからの収集要求送信、またはコマンドエラーのデータを保存するファイルの場合、以下のパスを使用します。

●未認識の WTM-DMD6V からの通信、またはコマンドエラーが保存されるログファイルパス

X ¥ COM ¥ EVENT_COM.LOG

↑
「8-1. 環境設定」で指定した通信イベントログファイル格納パス

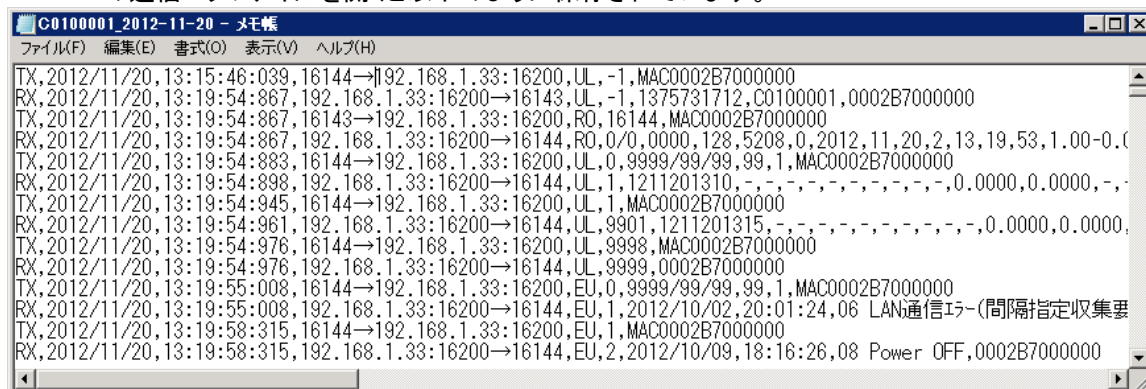
例) 通信ログファイル格納パス : C:¥Rems¥DataCollection



ファイル格納パス
 C:¥Rems¥DataCollection¥COM¥EVENT_COM.LOG

7-5-3-2. データフォーマット

WTM-DMD6Vの通信ログファイルを開くと以下のように保存されています。



例) 送信データ

TX.2012/11/20,13:15:46:039,16144 ,→192.168.1.33:16200,UL-1,MAC0002B7000000

送信時刻
(年月日時分ミリ秒)

送信ポート No

送信先 IP アドレス、
ポート No

送信データ

例) 受信データ

RX, 2012/11/20,13:19:54:867, 192.168.1.33:16200 ,→16143, UL,-1,1375731712,C0100001,0002B7000000

↑ 送信時刻 (年月日時分ミリ秒) ↑ 送信元 IP アドレス、ポート No ↑ 受信ポート No ↑ 受信データ

7-5-3-3. ログファイルの削除処理

本ソフトウェアが起動しているBASSサーバーの日付が変わった時に、現在の日付から8日以前の日付のファイル名のファイルを削除します。

※ファイルはWTM-DMD6V 1台につき、最大8ファイル保持されます。

8. 設定方法

8-1. 環境設定

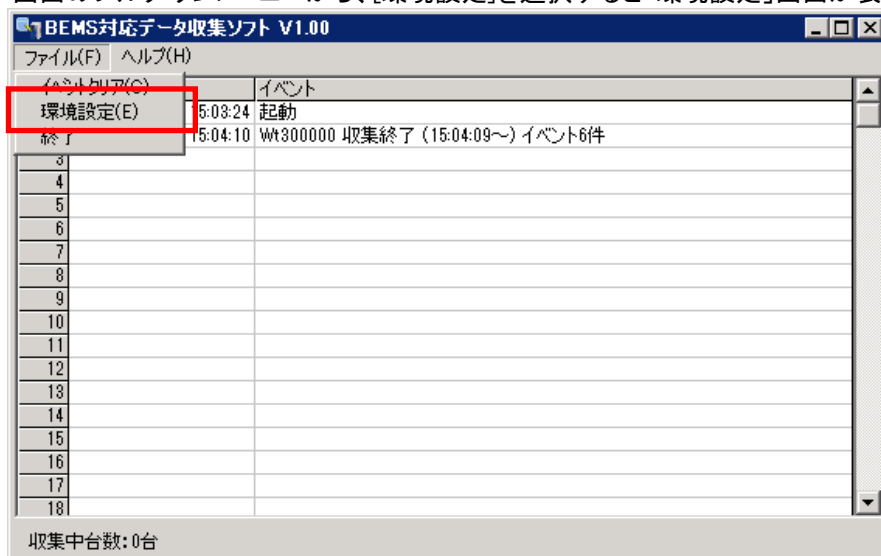
ここでは本ソフトウェアの環境設定、および、WTM-DMD6Vの送信ディレイ時間の設定を行います。

※ディレイ時間はBEMS対応モジュール登録ツールのオフライン登録時に自動で設定されます。

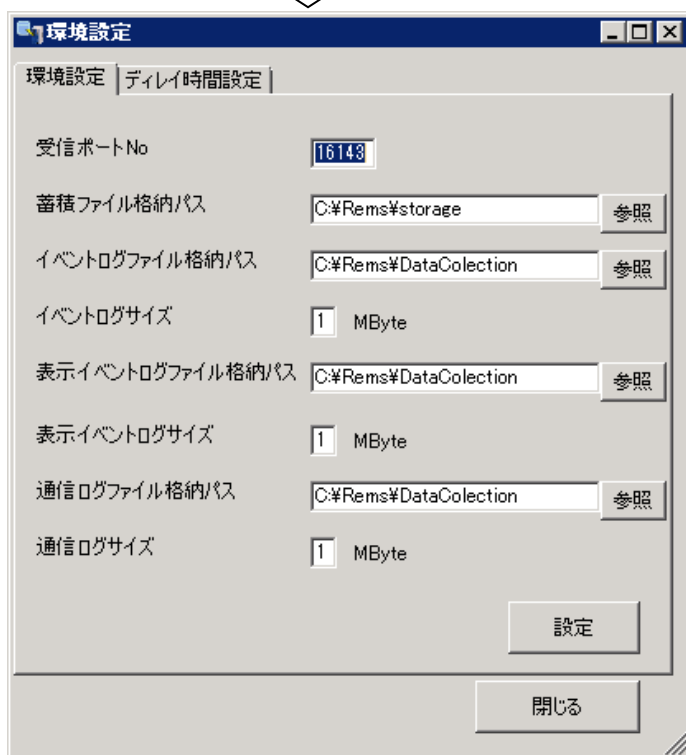
送信ディレイ時間の調整が必要な場合のみ設定を行ってください。

オフライン登録の詳細は、「BEMS対応モジュール登録ツール取扱説明書 6-1.WTM-DMD6Vの登録/変更/削除」を参照してください。

メイン画面のプルダウンメニューから、[環境設定]を選択すると「環境設定」画面が表示されます。



画面 8.1



画面 8.2

(1) 受信ポートNoの設定

WTM-DMD6Vの設定ファイルアップロード機能で設定したBASSサーバーポートNoと同じ値を設定します。

- ・デフォルト値 : 16143
- ・設定範囲 : 0～65511

! 注意

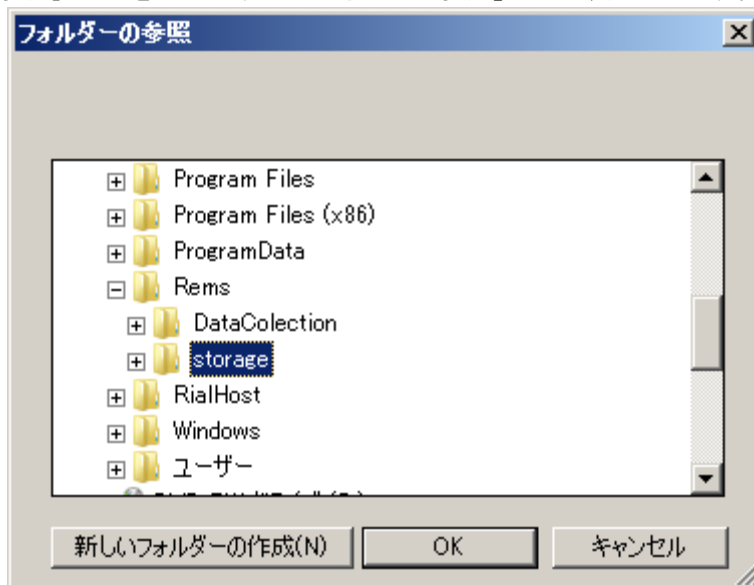
- 1) 本ソフトウェアは、受信ポートNoを先頭ポートとして連続する25個のUDPポート(デフォルト16143～16167)を使用します。
他のソフトウェアが占有しているUDPポートは使用できませんので、確認してください。
- 2) WTM-DMD6Vで設定したBASSポートNoと違う値を設定した場合、データ収集は行いません。
- 3) 受信ポートNoの設定を変更した場合は、センター側のルータのポートマッピング設定も合わせて変更してください。

(2) 蓄積ファイル格納パスの設定

- ・デフォルト値 : C:\Rems\storage

※ 蓄積ファイルの詳細は「7-1-1. 蓄積ファイル」を参照してください。

- ・[参照]ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されます。



(3) イベントログファイル格納パスの設定

- ・デフォルト値 : C:\Rems\DataCollection

- ・[参照]ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されます。

※ イベントログファイルの詳細は「7-5-1. イベントログファイル」を参照してください。

(4) イベントログサイズの設定

- ・デフォルト値 : 1MByte
- ・設定範囲 : 1～5MByte

※ 指定したサイズを超えた場合、古いデータから削除を行うことでファイルサイズの調整をします。

(5) 表示イベントログファイル格納パスの設定

- ・デフォルト値 : C:\¥Rems¥DataCollection

- ・[参照]ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されます。

※ 表示イベントログファイルの詳細は「7-5-2. 表示イベントログファイル」を参照してください。

(6) 表示イベントログサイズの設定

- ・デフォルト値 : 1MByte

- ・設定範囲 : 1～5MByte

※1 指定したサイズを超えた場合、古いデータから削除を行うことでファイルサイズの調整をします。

※2 1MByteログサイズの時 8192件保存可能。

(7) 通信ログファイル格納パスの設定

- ・デフォルト値 : C:\¥Rems¥DataCollection

- ・[参照]ボタンをクリックすると「フォルダの参照」画面が表示されます。

※ 通信ログファイルの詳細は「7-5-3. 通信ログファイル」を参照してください。

(8) 通信ログサイズの設定

通信ログファイルは以下の2種類あります。

- 1) WTM-DMD6V(1台)につき1日毎に1ファイル作成し通信データを保存する通信ログファイル。
- 2) 本ソフトウェアが認識していないWTM-DMD6Vからの収集要求送信、またはコマンドエラーのデータを保存するログファイル。(EVENT_COM.LOG)

この項目では②のログのファイルサイズを設定します。

- ・デフォルト値 : 1MByte

- ・設定範囲 : 1～5MByte

※ 指定したサイズを超えた場合、古いデータから削除を行うことでファイルサイズの調整をします。

8-1-1. ディレイ時間設定タブ

ここではデータ収集が同時刻に集中することを避けるため、送信ディレイ時間を設定します。
オンライン登録後であればいつでもこの設定を行うことが可能です。

※1 この設定を行う前にWTM-DMD6Vのオンライン登録を行ってください。

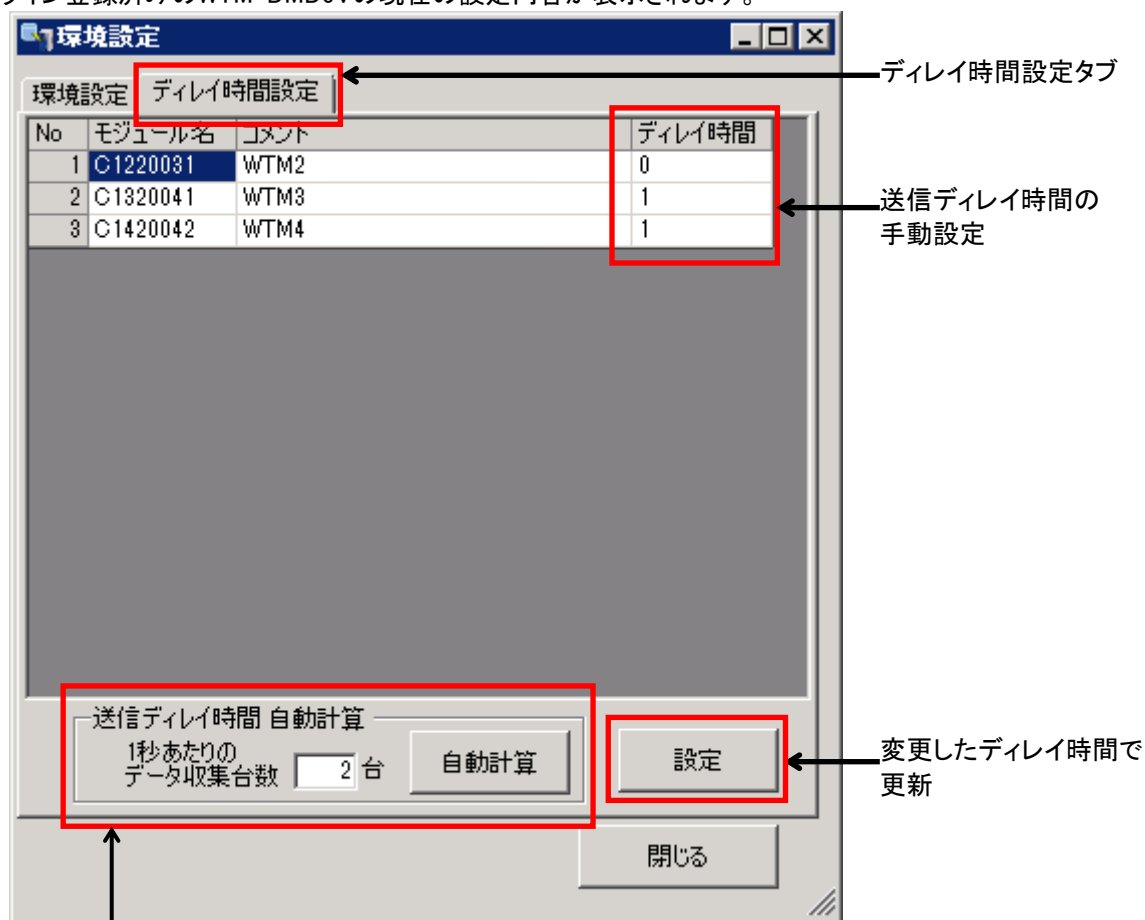
※2 送信ディレイ時間はオフライン登録により自動で設定されます。

送信ディレイ時間の変更が必要な場合のみ設定してください。

オフライン登録の詳細は、「BEMS対応モジュール登録ツール取扱説明書 6-1.WTM-DMD6Vの登録/変更/削除」を参照してください。

「環境設定」画面の[ディレイ時間設定]タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

オンライン登録済みのWTM-DMD6Vの現在の設定内容が表示されます。



画面 8.4

送信ディレイ時間の
自動計算

ディレイ時間の設定には以下の2つの方法があります。

(1) 送信ディレイ時間の自動計算

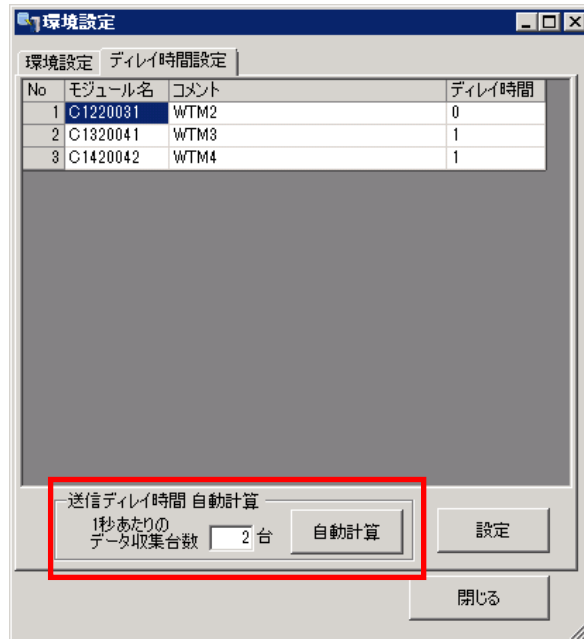
※ 設定方法の詳細は「8-1-1-1. 送信ディレイ時間の自動計算」を参照してください。

(2) 送信ディレイ時間の手動設定

※ 設定方法の詳細は「8-1-1-2. 送信ディレイ時間の手動設定」を参照してください。

8-1-1-1. 送信ディレイ時間の自動計算

全てのオンライン登録済みWTM-DMD6Vの送信ディレイ時間を自動計算します。



画面 8.5

(1) 入力方法

[1秒あたりのデータ収集台数]を変更した後、[自動計算]ボタンをクリックします。

入力したWTM-DMD6Vの台数毎に1秒ずつずらしたディレイ時間が、各WTM-DMD6Vのディレイ時間欄に入力されます。

- ・デフォルト値(台) : 2
- ・設定範囲(台) : 1～24

※ WTM-DMD6Vを180台以上使用する場合、1秒あたりのデータ収集台数は2台以上に設定してください。

⚠ 注意

1台/秒に設定した場合

[1秒あたりのデータ収集台数]を1台/秒に設定した場合、280台目以降は収集されません。

また、台数が279台内の場合でも、WTM-DMD6Vと本ソフトウェアの時計のずれ分、相当する台数が収集されない場合があります。

また、ディレイ時間に加えスレーブとの通信時間分遅延するため、スレーブとの通信を考慮すると1台/秒に設定した場合は180台以降収集されない場合があります。

(2) WTM-DMD6Vへの設定内容の反映

[設定]ボタンをクリックすると設定内容を更新します。

※[設定]ボタンをクリックせずに閉じるボタンをクリックした場合、設定内容は更新されません。

設定の更新はデータベースに行うので、更新した時点ではWTM-DMD6V内の設定に反映されません。

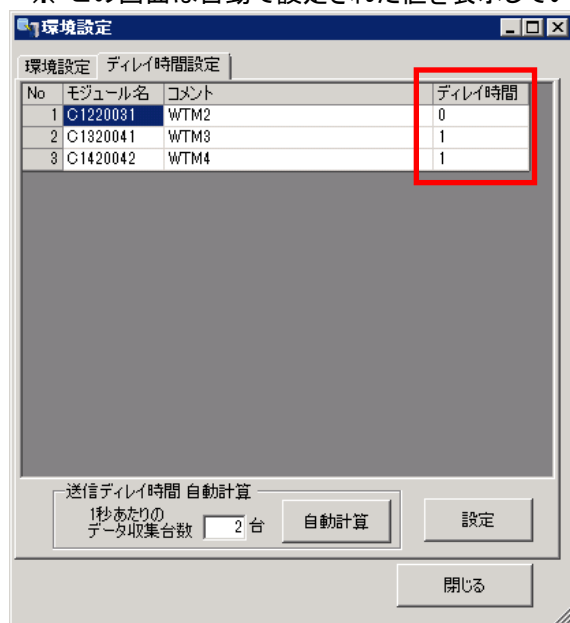
WTM-DMD6Vの設定はディレイ時間設定後最初のデータ収集時に反映されます。

反映後の次の収集から設定が有効になります。

8-1-1-2. 送信ディレイ時間の手動設定

送信ディレイ時間を手動設定します。(通常は自動設定を使用してください)

※ この画面は自動で設定された値を表示しています。



画面 8.6

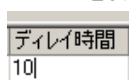
WTM-DMD6Vの蓄積データを収集する時間のディレイ時間(秒)を設定します。
(デフォルト値:オフライン登録時に自動で割り振られたディレイ時間)

(1) 入力方法

設定するWTM-DMD6Vの[ディレイ時間]の欄をダブルクリックします。

以下のようにカーソルが表示され値の変更が可能になります。

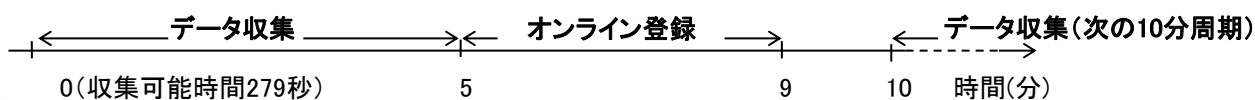
エンターキーを押すと入力が確定します。



・手動設定可能範囲(秒) : 0~279

※ 同じディレイ時間の設定は24台以内になしてください。

※本ソフトウェアは以下のように10分周期でデータ収集とオンライン登録を繰り返しています。



⚠ 注意

ディレイ時間に0~279の範囲外の値を設定した場合、データ収集時間外となり収集を行いません。
また、ディレイ時間が範囲内の場合でもWTM-DMD6Vと本ソフトウェアの時計のずれ分、相当する台数が収集されない場合があります。

ディレイ時間に加え、スレーブとの通信分遅延するため、180秒以内に設定してください。

(2) WTM-DMD6Vへの設定内容の反映

[設定]ボタンをクリックすると設定内容を更新します。

※設定ボタンをクリックせずに[閉じる]ボタンをクリックした場合、設定内容は更新されません。

設定の更新はデータベースに行うので、更新した時点ではWTM-DMD6V内の設定に反映されません。

WTM-DMD6Vの設定はディレイ時間設定後最初のデータ収集時に反映されます。

反映後の次の収集から設定が有効になります。

8-2. WTM-DMD6Vの時刻補正方法の設定

8-2-1. 設定について

WTM-DMD6Vの時刻補正方法には以下の2種類があります。

- 1) 本ソフトウェアからWTM-DMD6Vの時刻を補正する方法
- 2) NTPサーバーからWTM-DMD6Vの時刻を補正する方法

デフォルトでは本ソフトウェアからWTM-DMD6Vの時刻を補正する設定になっています。

※ NTPサーバーからWTM-DMD6Vの時刻を補正する場合は、設定を変更してください。

※ BASSサーバーは、NTPサーバーとの時刻同期をWindows OSで設定してください。

設定方法の詳細は「8-2-2. 設定手順」を参照してください。

(1) 本ソフトウェアからWTM-DMD6Vの時刻を補正

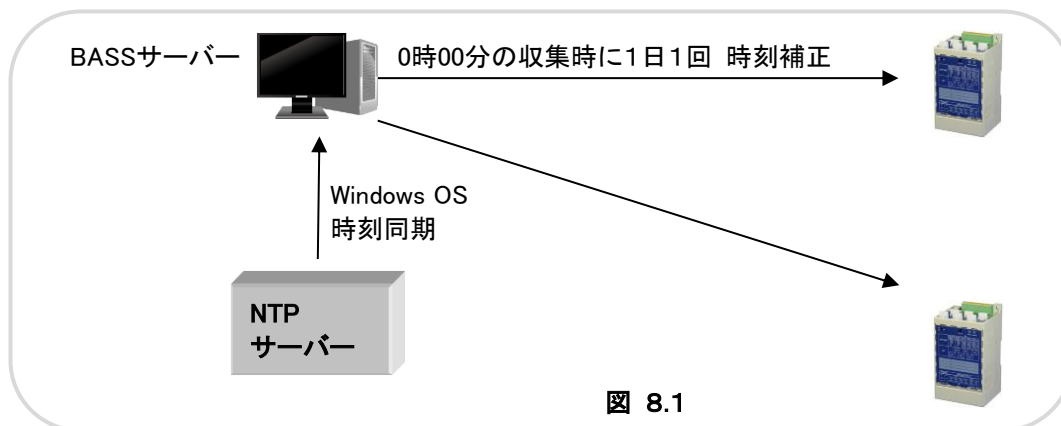


図 8.1

(2) NTPサーバーからWTM-DMD6Vの時刻を補正

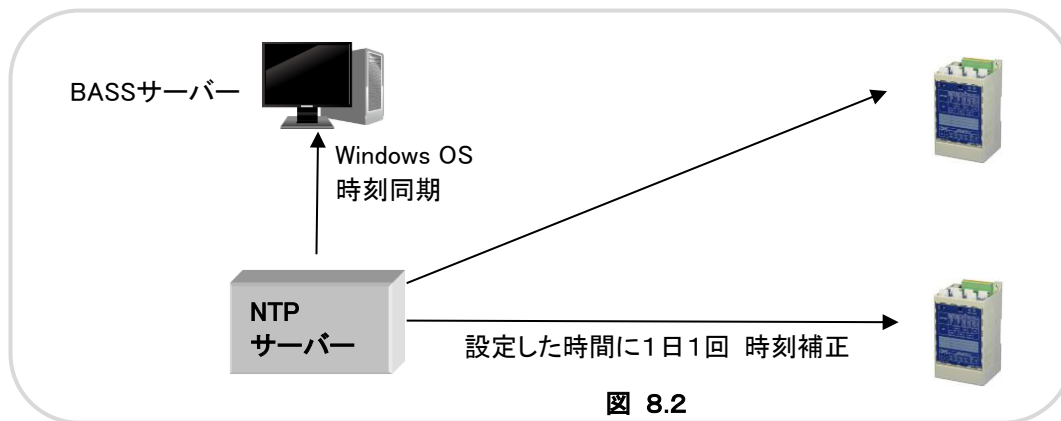


図 8.2

⚠ 注意

本ソフトウェアの時刻補正方法の設定と、WTM-DMD6Vの時刻補正方法の設定は同じにしてください。

※ WTM-DMD6VのNTP時刻補正の詳細は、「BEMS対応デマンドコントローラ取扱説明書 第三章 Webサーバー編」を参照してください。

例) WTM-DMD6V設定が「NTPサーバーを使用しない」設定で、かつ本ソフトウェアでは「NTPサーバーからWTM-DMD6Vの時刻を補正」に設定した場合、WTM-DMD6Vは時刻補正されません。

8-2-2. 設定手順

WTM-DMD6Vの時刻補正方法の設定は以下の手順になります。

- ① 本ソフトウェアが起動している場合は終了してください。
- ② 本ソフトウェアのWTM-DMD6Vに対する時刻補正方法は以下のファイルで設定します。

●設定ファイルパス

× ¥DataCollector.ini



本プログラムのインストール時に指定したインストールパス

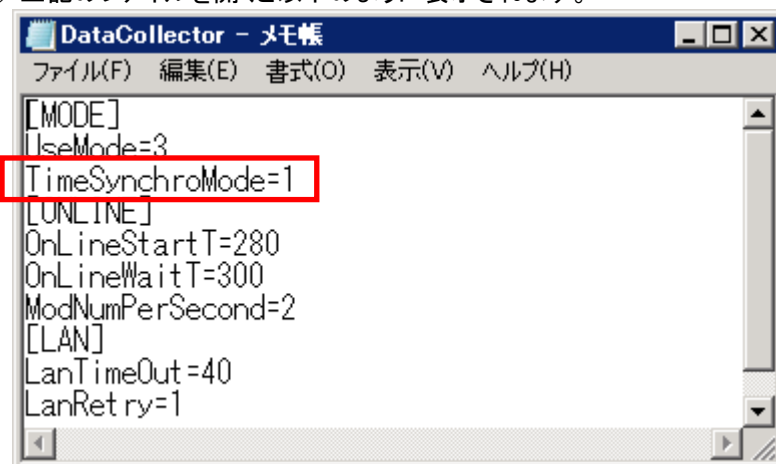
例) インストールパス : C:¥RialHost¥DataCollection



ファイル格納パス

C:¥ RialHost¥DataCollection ¥DataCollector.ini

- ③ 上記のファイルを開くと以下のように表示されます。



- [TimeSynchroMode]の値がWTM-DMD6Vに対する時刻補正方法になっています。

設定デフォルト値 : 1

設定範囲 : 0/1

本ソフトウェアからWTM-DMD6Vの時刻を補正 : 1

NTPサーバーからWTM-DMD6Vの時刻を補正 : 0

⚠ 注意

「DataCollector.ini」の編集は本ソフトウェアを終了した状態で行ってください。
また、[TimeSynchroMode]以外の項目は変更しないでください。

9. 表示メッセージ

本ソフトウェアでポップアップ表示されるメッセージは以下になります。

ーアルファベットー

●UDPポートオープンエラー

→本ソフトウェア起動時に受信ポートNoのオープンに失敗しました。
ポートNoの設定が他と重複等、間違いがないか確認してください。

ーア行ー

●一秒あたりのデータ収集台数は1～24台の範囲で設定してください

→デレイ時間設定タブで1秒あたりのデータ収集台数の指定が範囲外です。
1秒あたりのデータ収集台数を設定し自動計算を行う場合、1～24台の範囲で設定してください。

●イベントログ格納パスが見つかりません

→環境設定タブで設定したイベントログ格納パスが見つかりません。
存在するパスを設定してください。

●イベントログサイズの指定が違います

→環境設定タブで設定したイベントログサイズが範囲外です。
1～5の範囲で設定してください。

●イベント表示をクリアします

→メイン画面のイベント表示をクリアします。
※[OK]ボタンをクリックすると、表示されたイベントをクリアします。
[キャンセル]ボタンをクリックすると、クリアをキャンセルします。

ーサ行ー

●受信ポートNoが変更されました。

本ソフトウェアを再起動してください

→環境設定タブで受信ポートNoが変更されました。
本ソフトウェアを再起動するまで受信ポートNoの設定は更新されないため、本ソフトウェアを再起動してください。

●受信ポートNoの指定が違います

→環境設定タブで受信ポートNo設定した値が範囲外です。0～65511の範囲で設定してください。

一タ行一**●蓄積ファイル格納パスが見つかりません**

→環境設定タブで設定した蓄積ファイル格納パスが見つかりません。
存在するパスを設定してください。

●通信ログファイル格納パスが見つかりません

→環境設定タブで設定した通信ログファイル格納パスが見つかりません。
存在するパスを設定してください。

●通信ログサイズの指定が違います

→環境設定タブで設定した通信ログサイズが範囲外です。
1～5の範囲で設定してください。

●ディレイ時間が設定範囲[0～279]を超えるため設定できません

ディレイ時間が範囲内になるように設定してください
→送信ディレイ時間の自動計算での結果が設定範囲外になりました。
WTM-DMD6Vが280台以上の場合は、1秒あたりのデータ収集台数を2台以上に設定してください。

●ディレイ時間の指定が違います

→ディレイ時間設定タブで送信ディレイ時間手動設定で設定したディレイ時間の指定が違います。
送信ディレイ時間を手動設定で設定する場合、ディレイ時間を0～279の範囲で設定してください。

●データベース管理ツールが起動中です

本ソフトウェアを終了します
→データベース管理ツールを終了してから本ソフトウェアを起動してください。

●データベースに接続できません

→データベース接続に失敗しました。
以下の手順で操作してください。

- 1) BEMS対応データベース管理ツールよりSQL Server Expressインストールを再度行ってください。
※ 既にインストール済みの場合は、アンインストール後に再度インストールを行ってください。
- 2) BEMS対応データベース管理ツールよりデータベース登録を行ってください。
- 3) SQL Server Expressを起動してください。
※ 詳細は「BEMS対応データベース管理ツール取扱説明書」を参照してください。

●データ収集中です。収集完了後、自動で終了します

→データ収集中のため終了できません。収集後に自動終了します。
しばらくお待ちください。

ーハ行ー**●表示イベントログ格納パスが見つかりません**

→環境設定タブで設定した表示イベントログ格納パスが見つかりません。
存在するパスを設定してください。

●表示イベントログサイズの指定が違います

→環境設定タブで設定した表示イベントログサイズが範囲外です。
1～5の範囲で設定してください。

ご注意 本ソフトウェアおよび本取扱説明書の内容は、お断りなく変更する場合がありますのでご了承ください。

watanabe

渡辺電機工業株式会社

本社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目16番19号
TEL 03-3400-6141(代) FAX 03-3409-3156

<http://www.watanabe-electric.co.jp>

IM-0593-00 2013年1月23日